KONAN TODAY

100th ANNIVERSARY　KONAN　2020 SPRING | No.57

● 特 集

CUBE、FIRST 挑戦の10年

| マネジメント創造学部　| フロンティアサイエンス学部

● It's KONAN Style［特別編］

CUBE、FIRST 1期生の今

● なるほど！甲南アカデミア

法科大学院　教授

園田 寿

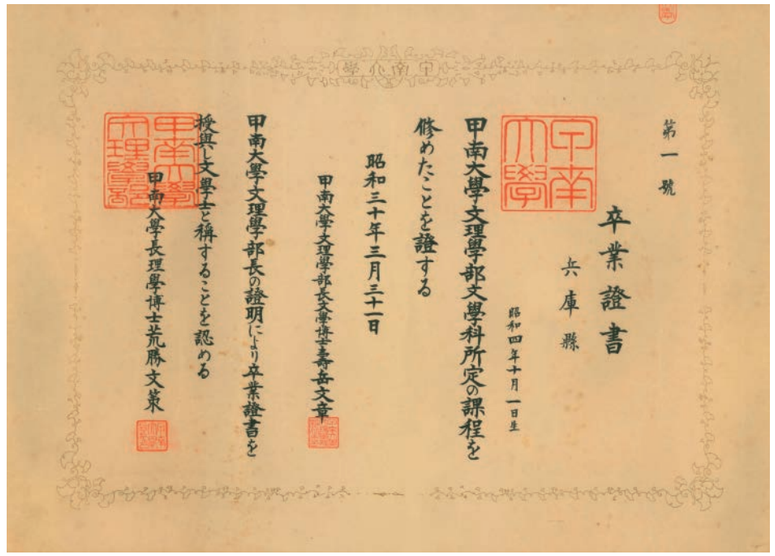
KONAN TODAY No.57

2020年3月26日発行［発行］甲南学園広報部　〒658-8501　神戸市東灘区岡本8丁目9番1号　TEL.078-431-4341(代)　https://www.konan-u.ac.jp

100th ANNIVERSARY KONAN GAKUEN

甲南学園の100年

Precious time behind us ～豊潤な時を讃えて～



第一號

卒業證書

兵庫縣

昭和四年十月一日生

甲南大學文理學部文學科所定の課程を修めたことを證する

昭和三十年三月三十一日

甲南大學文理學部長文學博士壽岳文章

甲南大學文理學部長の證明により卒業證書を授與し文學士と稱することを認める

甲南大學長理學博士荒勝文策

※一部画像処理しています

『第一號卒業證書』

これは甲南大学が初めて送り出す卒業生に授与した、第一號の卒業證書である。

昭和30年の春、4年間の充実した学生生活を経た、第一期生150名がこの證書を手にしている。社会各層において復興の萌芽が実を結びつつある時代背景のなか、学士号を取得できる者はまだまだ少数であった。

荒勝学長と壽岳学部長から、直接卒業證書を授けられた若者の気概は天を衝くものがあったのではなかろうか。

人々が手をたずさえ、新しい日本を創りあげようとする熱気に満ちた世相にあって、真剣に学び生きた甲南での原風景こそが一人ひとりにとって大きな力となったことであろう。

完

特集
Special issue

CUBE、FIRST　挑戦の10年

マネジメント創造学部と
フロンティアサイエンス学部が誕生して10周年を迎えました

2009（平成21）年4月、阪急電鉄西宮北口駅前（西宮市）とポートアイランド（神戸市中央区）に
新しく開設されたキャンパスを舞台に、マネジメント創造学部（愛称：CUBE）、
フロンティアサイエンス学部・研究科（愛称：FIRST）の挑戦がスタートしました。
プロジェクト型グループ学習を展開し、経済・経営を中心に英語を重視した学びを深めるCUBE、
バイオテクノロジーとナノテクノロジーの融合領域を探究し、画期的な技術革新をめざすFIRST。
ともに、既存の学問の枠を超えた学際的教育・研究を通して、
人や社会の未来に貢献できる人材育成を描く2つの学部のこれまでについて、
マネジメント創造学部長 谷口るり子教授および、
フロンティアサイエンス学部長 松井淳教授、同研究科長 赤松謙祐教授にお話しいただきました。

KONAN TODAY

2020 Spring | No. 57

CONTENTS

02 特集
CUBE、FIRST 挑戦の10年
マネジメント創造学部と
フロンティアサイエンス学部が誕生して
10周年を迎えました

03 学生は経験を繰り返すことで確実に成長しています
マネジメント創造学部長　教授 谷口るり子

05 異分野の掛け算から新たな発想を育む
ねらい通りに基礎を固めた10年、次の10年はさらなる飛躍へ
フロンティアサイエンス学部長　教授 松井 淳
フロンティアサイエンス研究科長　教授 赤松 謙祐

07 さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生
It's KONAN Style［特別編］
CUBE、FIRST　1期生の今
金城 ウイリアンさん／国広 潮里さん

09 大学生と高校生が地域の課題解決にチャレンジ！
SDGs × 甲南大学
岡山市チーム

13 甲南大生の挑戦を可視化する
KONAN サーティフィケイト

15 なるほど!甲南アカデミア　法科大学院 教授　園田 寿
規制か？啓蒙か？
インターネット犯罪から青少年を守る方策

17 座談会
「涙と笑いのホームステイ」
わが家に外国人留学生がやってきた！

21 高中 Topics
快挙！甲南高等学校将棋部
令和最初となる全国大会でついに覇者に！
令和元年度 甲南高等学校・中学校 育友会 主催
文化講演会「ソフィア」・演奏会＆親睦会

23 KONAN TOPICS
甲南学園から"旬"のニュースをお届けします

25 **岡本ぶらり 第7回**
旅する岡本
世界の国々やある地域にこだわったお店で、
岡本にいながら別の地へ思いを馳せる

27 平生釟三郎日記刊行記念シリーズ 完
平生釟三郎の寿像の話

29 KONAN FORUM
課外活動成果報告／新刊一覧 ほか

裏表紙 **甲南学園の100年 完**

表紙の1枚
爽快な空に映える1号館
（岡本キャンパス）

CUBE 西宮

マネジメント創造学部が開設10周年を迎えました

これまでの大学の授業の枠にとらわれない学び方によって、教養と品格を備え総合的マネジメント能力を有する人の育成をめざして、マネジメント創造学部の挑戦はスタートしました。10周年を迎えた今、その挑戦の成果を紹介します。

平生精神を現代に具現する使命を帯び2009年に始動

マネジメント創造学部（愛称：CUBE）は、教養と品格を備え総合的マネジメント能力を有する人の育成をめざして開設されました。まず、“Hirao School of Management”と英語名から決められたことは誕生時のユニークなエピソード。創立者・平生釟三郎の名を冠した学部は、平生の教育理念を現代に再現することを目的とし、日本語名はマネジメント創造学部と定められました。CUBEがめざす総合的マネジメント能力とは、経済・経営の知識、幅広い教養、実践的な英語力を組み合わせて、組織や地域社会にある問題を、個人あるいはチームとして解決に向けて行動できる力、やり抜く力を意味します。特色である少人数によるプロジェクト型学習やフィールドワーク、海外留学など、活動的な学びを可能にするキャンパスを阪神間中心の西宮北口駅前に構え、「自ら学び、共に学ぶ力」「自ら考え行動する力」の醸成をめざし、2009年4月に学生と教職員の挑戦が始まりました。

卒業者数：1253名
※2019年度前期末現在

学生は経験を繰り返すことで確実に成長しています

学生を見ていると、「経験を繰り返す」ことがいかに有意義であるかを実感します。CUBEの学びは、プロジェクト型学習であれ、海外留学やフィールドワークであれ、自主的に行動することが求められます。その際、仲間や周囲の人々と協力し合うことも求められ、学生は経験を繰り返すことでその必要性に気づきます。また、課題を見つけ解決するには、論理的思考力や構想する力、協働する力など多様な能力が問われますが、学生でありながら社会に出て多くを経験することで、これらの能力を身につけています。CUBEの魅力である新しい学びは、10年を経て受験生に着実に浸透しており、その多くが「経済と経営の両方を学びたい」「英語を学びたいけど、それだけじゃ物足りない」「プロジェクト型学習で課題解決力を身につけたい」と明確な理由をもって入学してきます。2021年度からは2つのコース※を統合し、グローバルプログラムを学部全体に広げ、地域・国際社会で活躍できる実践力を有する人を育成します。CUBEの次の10年もご期待ください。

※マネジメントコース・特別留学コース

マネジメント創造学部長
教授 谷口（たにぐち） るり子（こ）

留学

数週間の語学留学から1年間のアカデミック留学まで、多様な留学プログラムを整え海外体験を奨励しています。特に、英語はグローバルコミュニケーションのツールと位置づけるCUBEでは、現地の学生とともに英語で経済や経営に関する専門科目を学ぶアカデミック留学が特色の一つ。また、キャンパス内の「English Only-ZONE」では、いつでもネイティブ教員の英語に触れることができ、英語力向上が図れます。

ニューヨーク州立大学バッファロー校へのアカデミック留学

特別留学コースでは、2年次秋からの1年間、現地学生と同じ教室で経済や経営の英語の授業を受け、英語をフルに活用しながら留学生活を過ごします。専門分野を探究すると同時に、異なる文化や価値観をもつ学生たちと深くかかわることで、グローバルな視野やマネジメント能力を養います。また、2015年度よりビッツバーグ大学の学生を約1か月間受け入れ、海外の学生との交流を図っています。

留学生派遣数

マネジメントコース・特別留学コース合計
※国際交流センター、国際言語文化センター主催プログラム含む

500名
※2019年度現在（累計）

フィールドワーク

農業や教育やビジネスなどの分野において、国内外で多彩な体験に挑むフィールドワークでは、リサーチの方法を学んだうえでさまざまな現場に足を運んで現状を知り、課題解決に向けて調査し、結果の報告や発表を行います。国内でのフィールドワークだけではなく、乳業組合の運営・販促の支援活動でCUBEの学びを生かすブータンフィールドワークなど、海外でのフィールドワークも多彩です。教室で学んだことを総動員し課題解決を探求することに重点を置いています。

農作業中心の「働き」を通して超高齢化した過疎地の課題を探る

2010年から10年間も継続して行う農業フィールドワークは、三重県大台町を舞台に実施しています。春から秋の半年間、田植えから稲刈り、その後の販売まで、米作りの一連を体験します。現場での米作り体験とキャンパスでの学習を繰り返す中から、農作物の流通や生育システムを学び、また米農家の方々や地域が直面する課題を探り、解決方法を提言します。

農業フィールドワーク参加者数（累計）
86名

海外フィールドワーク

実施先：**7**か国

- インドネシア
- ブータン
- 中国（上海）
- ベトナム
- タイ
- ラオス
- フィリピン

参加者数（累計）：**192名**

プロジェクト

プロジェクト型学習はCUBEの学びの最大の特色。「パブリック」「グローバル」「ビジネス」「超領域」の4領域で40を超える研究プロジェクトが進行しており、学生は卒業までに5つ以上のプロジェクトに参加します。自ら学び課題を探り、現場を体験したうえで解決策を提案し実践するというサイクルを仲間とともに繰り返します。企業や自治体が抱える課題解決を探る産官学連携プロジェクトも盛んに行っています。

姫路港活性化企画コンペでクルーズ船の乗客向けプランを提案し最優秀賞を受賞

開港60周年を迎えた姫路港（兵庫県姫路市）の活性化企画を競うコンペで、「姫路港を起点とした観光プラン」をグループで提案し最優秀賞を受賞。姫路の伝統・文化・名物に焦点を当て、クルーズと姫路市街観光をセットにしたプランは、地元商店街の活性化にもつながる独創的な視点が評価されました。地域の魅力を客観的に分析できたのは、グループが現場に足を運びリアルな情報を調査した成果といえます。

就職データ

多様なものの見方や洞察する力、4年間の学びでさまざまな経験を積んだ学生を社会に送り出してきました。卒業生は、金融・サービス・製造業など多彩な分野で活躍しています。

［就職率（2019年3月卒業）］
※就職者数÷就職希望者数

98.3%

【出典】マネジメント創造学部ホームページ

異分野の掛け算から新たな発想を育む ねらい通りに基礎を固めた10年、次の10年はさらなる飛躍へ

フロンティアサイエンス学部が開設10周年を迎えました

科学のフロンティアを探究するという斬新な目標を掲げ開設に尽力され、10周年を迎える今日まで、フロンティアサイエンス学部を支え見守ってこられた二人の先生にお話を伺いました。

フロアレイアウトに込められた思い

フロンティアサイエンス学部・研究科（愛称：FIRST）は2009年に開設されました。新学部のねらいを松井淳学部長は「生物学と化学を融合的に研究・教育すること」と説明します。神戸医療産業都市の中、スーパーコンピュータ京（現在、富岳に置換中）に隣接する立地は、科学のフロンティアを学ぶのにはまさに最高の場です。

「ただ、開設主旨が斬新なだけに、果たして高校生たちが理解してくれるだろうか。また、どれぐらいの志願者が集まってくれるのかと心配でした」と、開設時の率直な心境を明かすのは研究科長を務める赤松謙祐教授。結果的に1期生は定員通り35名がそろいました。

新学部の理念は、そのフロアレイアウトに反映されています。重視されたのは「1年次から研究室にいるような環境」。学生一人ひとりに専用の研究スペース『マイラボ』が与えられ、その隣にミーティングルームと研究ゾーンを設置。教員や大学院生たちが研究にいそしむ様子が自然に学生たちの目に入ります。

「先生方には、マイラボの横を通る際に学生にできるだけ声をかけるよう依頼しました。何気ないコミュニケーションを〝隠れたカリキュラム〟と呼び、授業とともに大切にしたのです」（松井学部長）

研究者マインドを育む

キャンパス内に設置された機器類は、核磁気共鳴分光装置や走査型電子顕微鏡など、学生たちの使い慣れた経験が、将来、研究者として活躍するときにすぐに役立つように、とハイスペックなものを用意。近隣企業との共同研究にも利用されています。

「開設当初から、学生の研究者マインドを育もうと教員間で話していました」（赤松研究科長）

そのかいあって4年後には約3分の2が大学院に進学。折しも生物と化学、その融合領域での学びの重要性が注目され始めた時期でした。当初は学生35名に対してサポートに当たる教員が15名と、密度の濃い関係性の中で育まれた研究者マインドは、FIRSTの伝統として後輩の学生たちにも伝えられていきます。

1年次の両隣に先輩が配置されるマイラボのレイアウトには、後輩の面倒をきめ細かく見てほしいとの願いも込められていたのです。

高い大学院進学率、そして研究職へ

卒業生の多くは、理系の研究職や技術職として社会に旅立ちました。そのうちの何名かは、神戸医療産業都市に集積する企業に就職しています。2期生以降は、博士後期課程まで進む学生がコンスタントに出るようになりました。

「研究者マインドを養うことは、誰もが研究者をめざせという意味ではありません。研究とは自ら問題を打ち立て、解決策を考え抜いたうえで実験などにより証明することです。一連のプロセスをやり切ることで、未来を切り開く力が培われるのです」（松井学部長）

こうした研究を通じて、自主性や積極性も自然に培われていきます。だから、一般公開イベントなどを行う際には、学生たちの多くが自主的に手伝いを申し出てくれます。

研究成果は世界レベルに

研究面においても、化学と生物学の融合による新たな発想が実を結び、2018年には英国のオンライン科学雑誌『Nature Communications』に論文が2本掲載されました。イノベーションに挑戦し、ベンチャー起業家となった学生も出ています。

また、2015年度にはFIRSTの教員が中心となって、短期留学体験型集中科目『エリアスタディーズ』のシンガポールコースを立ち上げました。シンガポールにある世界トップクラスの理系大学に、学部生と大学院生合わせて約20名が交流に出かけています。

「この10年で、社会に貢献できるテクノロジー開発と人材育成という当初の目標はほぼ達成できました。次の10年では、高度化している社会の要求に応えるために、博士人材の輩出を見すえた9年一貫のカリキュラム構築に取り組みます」と、松井学部長は今後の構想を語ってくれました。

フロンティアサイエンス学部長
教授 松井 淳（まつい じゅん）（右）

フロンティアサイエンス研究科長
教授 赤松 謙祐（あかまつ けんすけ）（左）

2009 ← 2015 ← 2020

医療関連施設や研究施設が集積

FIRSTがあるポートライナーの京コンピュータ前駅や医療センター駅周辺地区は、神戸市により神戸医療産業都市に指定されています。日本でも最大級の医療クラスターは、理化学研究所、先端医療センターなどの公的研究・医療機関や大学、医療や健康にかかわる企業などトータルで約350もの施設が集積。立地を生かした教育・研究活動も盛んに行われ、企業見学や講演会なども定期的に開催しています。

［卒業者数］
学部生 ・・・・・・ 237名
大学院生 ・・・・ 105名
※2019年度前期末データ
※大学院生の数には論文博士を含む

革新と伝統の融合

FIRSTでは学部開設以来、甲南大学の他の学部とは全く異なる独自のカリキュラムで教育を行っていましたが、2017年度からは、学部の1・2年次は週に1日、岡本キャンパスで他学部の学生たちと同じ授業を受けることになりました。それに合わせて、入学定員も45名に増やしました。少人数教育の良さを残しながら、より多くの人たち、そして、多様な学びに触れることで、それまで以上に大きく学生たちに成長してほしい、という願いをこめた学部教育改革の一つです。

細胞および細胞機能・応答の新しい活用法を提唱 ～“生きている”多機能性細胞ゲルの開発～

准教授 長濱宏治（ながはま こうじ）

生きた細胞を生体適合性高分子を用いて、化学架橋（ハイドロゲル化）することに世界で初めて成功しました。ゲル内の細胞が示す反応をゲル全体の機能発現に利用できるため、このゲルは細胞と同等以上の機能をもちます。生体の損傷組織に投与すると、細胞ゲルが損傷組織の再建と機能回復を促すなど、新しい細胞治療法を生み出す基盤材料として、医療分野への貢献が期待されます。

がん細胞の増殖や転移を促進する分子だけをねらって破壊する新しい光線力学治療法の開発

教授 三好大輔（みよし だいすけ） 准教授 川内敬子（かわうち けいこ）

光線力学治療法は、身体的負担の少ないがん治療法として知られています。本研究では、がん細胞に光感受性物質を導入し、近赤外光を照射してがん細胞の分裂や転移促進にかかわるたんぱく質をコードするRNAだけを分解する方法を世界で初めて確立しました。RNAをねらった医薬品はほかに例がないことから、本成果を基にした新しい医薬品開発の加速が期待されます。

FIRST同窓会も10周年

マイラボで育まれた絆を、卒業後もずっと。そのような想いからFIRSTには、大学の同窓会に加えて独自の同窓会組織があります。2月22日のFIRST同窓会10周年総会では、約120名の同窓生と教職員が集まり学生時代を懐かしむと同時に、仕事上の相談をするなど、社会人としての一面も。同窓生たちの豊富な経験は、今後、在学生のキャリア教育にも生かされていく予定です。

CUBE、FIRST 1期生の今

CUBE 西宮

日本とブラジルの懸け橋になりたい。そんな思いを実現できました

株式会社 メタルワン
Metal One do Brasil Com. E Rep. Ltda.
Sales Manager／ Assistant Chief Regional Officer
金城（きんじょう） ウイリアンさん
2013年 マネジメント創造学部
マネジメント創造学科マネジメントコース 卒業

いち早くグローバルビジネスを体感できたインターンシップ

他大学にはない学部構想やカリキュラムに魅力を感じて、マネジメント創造学部に進みました。戦後に父の家族がブラジルへ移住し、現地で育った私にとって、学園創立者の平生釟三郎先生が1935年にブラジル経済使節団長として活躍されたことも大きな理由でした。英語については、単に文法を学ぶのではなく「英語で学ぶ」環境があり、就職後に実践の場で役立ちました。プロジェクト型学習では企業分析、ブランディング、国際問題などの教養も身につきました。3年次に参加したコロンビア大学情報通信機関のインターンシップでは、ニューヨークの日本企業を訪問したり、世界各国から集った学生たちとともに活動したりと、グローバルビジネスをいち早く体感できたことは大きな財産です。

身についた論理的思考を生かし、各国の発展に貢献

来日当初は数年でブラジルに帰るつもりでしたが、高校生活を通じて日本での生活が好きになり、ブラジルと日本を結びつける仕事がしたいと考えるようになりました。現在、鉄鋼総合商社に入社して7年目。「3国間貿易取引」を担当する営業職です。各国のマーケット調査、日々の市況の把握、物流の手配、ファイナンス機能を付与して販売するなど、幅広い知識が求められる業務を担っています。2019年からブラジル駐在となり、営業に加え、南米統括補佐業務も担当。大学で学んだ、問題を整理分析し解決に導く論理的思考や教養は、国際的なビジネスの場で欠かせないスキル。ブラジルと日本だけでなく、さまざまな国々をつないで取引を行っている現在、会社と各国の発展に貢献していることが誇りです。

On that day

ニューヨークに到着して一番最初に向かった憧れのウォールストリート。スーツを着た銀行・証券マンが街をさっそうと歩いている姿が忘れられません。

FIRST 神戸

面白いことを見つけ、夢中になる。ここで育んだ姿勢が私の原点です

一般財団法人 沖縄美ら島財団
国広（くにひろ） 潮里（しおり）さん
2013年 フロンティアサイエンス学部生命化学科 卒業
2015年 同研究科生命化学専攻 修士課程修了
2019年 琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻 博士後期課程修了

先生方と最先端の環境に恵まれ好奇心の羽根を広げた6年間

すべてはオープンキャンパスの実験講座から始まりました。遺伝子鑑定に挑戦したもののうまくいかない私に「明日もう一度、来たら？」という温かい声が…。好奇心旺盛な私は、その一言に「ここでなら伸び伸びと学べる！」と確信。実際には、マイラボという専用スペースが用意されていたり、1年次から先端機器を使って実験できたりと想像以上の環境が待っていました。3年次になる直前、ウミガメ研究で有名な沖縄の黒島研究所で研修を受けようと決めたのも、さらに視野を広げたいと考えたから。そんな私を「甲南大学同窓会チャレンジ基金」が支援してくださり、沖縄で海洋生物を探究する道へ一歩踏み出すことができました。

専門性をワクワクする体験に変え沖縄の魅力を伝える懸け橋へ

現在は、沖縄美ら島財団の総合研究センターで普及啓発活動に携わっています。沖縄の自然・歴史・文化に関する調査研究の成果を広く一般の方に伝えることが主な役割。私たち職員それぞれの専門を生かした学習プログラムや講演会の企画、出前授業など教育機関と連携した授業の実施、さらには小学校跡地を利用した美ら島自然学校での教育活動なども担当しています。さまざまな知見を生かしながら楽しく学べる機会を提供することは、沖縄の豊かな魅力を伝え、後世に残す「懸け橋」となること。私自身の研究分野であるサンゴ礁域に生息する無腸動物の調査も継続し、専門性を土台としたワクワクする学びの体験を人々に届けたいと思います。

On that day

大学時代に研修のために訪れた沖縄の黒島研究所で、ウミガメの放流を経験。同行した後輩や地元学生たちと、生き物の観察や島の方々との交流など、充実した日々を過ごしました。

大学生と高校生が地域の課題解決にチャレンジ！

SDGs×甲南大学

身近な課題解決に地域の高校生と甲南大生がチームで取り組む「関西湾岸SDGsチャレンジ（主催／甲南大学・朝日新聞社メディアビジネス局）」。2年目を迎えた2019年は、7月から9月にかけて神戸市、堺市、和歌山市、徳島市、岡山市を舞台に、5つのチームがそれぞれの地域がもつ課題に向き合いました。今回は初参加となった岡山市のチームをピックアップ。さまざまな文化が共生し、住み続けられるまちづくりをテーマにした岡山市チームの取り組みとその後について、サポート役を担った経済学部石川路子教授と2名の学生の声を通して紹介します。

9月22日に甲南大学で行われた「SDGsチャレンジアカデミー」の様子

持続可能な開発目標
SDGsとは

「Sustainable Development Goals」の略称。2015年の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会実現のため、2016年から2030年までを期限とする国際目標です。「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」など17のゴールと169のターゲットで構成されています。

グループワーク → フィールドワーク → チャレンジアカデミー

プロジェクトはグループワークからスタート。SDGsや地域が抱える課題について学び、取り組むテーマを決定します。岡山市チームの課題は「岡山市の多文化共生を推進するための方策」を考えること。「共生」をキーワードに、互いに理解し尊重し合えるまちづくりをめざす方法について、岡山学芸館高等学校の生徒3人と甲南大生5人がチームを組み、アイデアを出し合いました。

続いてメンバーたちは現状を知るために、フィールドワークへ。岡山市では外国人人口が増加傾向にあり、特に東南アジアからの労働者が増えているという現状を知り、メンバーたちは外国人をサポートする岡山市職員に話を聞きました。現場では、多言語に配慮しながらも、会話に苦労する様子や、日本語の難しさにつまずいて帰国する外国人がいることを知る中で、単に日本語習得だけでは真の課題解決にならないと気づき、コミュニケーションを図ることにも焦点を当てた語学ゲームを考案しました。

昨年9月開催の「SDGsチャレンジアカデミー」では、自治体へ向けて解決策を発表しました。日本で暮らす外国人の日本語のスキルアップを目的とした「Language Exchange Game」と名づけられたゲームは、それぞれの母語を軸に、できるだけ自然な形で日本語を使った会話を楽しむユニークなスタイルです。ゲームは多国籍の参加者が2グループに分かれ、多言語でヒントが書かれたカードが各グループに配布されます。その言語が理解できるメンバーが日本語でヒントの内容を説明し、これらを繰り返してグループごとにキーワード（答え）を探っていくというものです。考案したゲームは日本語教室で活用してもらうことになりました。

共生の意味を一人ひとりが考えられる取り組みになりました

Teacher's Voice

経済学部
教授 石川 路子（いしかわ のりこ）

岡山市チームが向き合ったのは、「外国人住民が増える中、多文化共生を実現する」という課題です。岡山学芸館高等学校で多文化をテーマに学習している生徒たちと甲南大生がチームを結成しました。

このプロジェクトのポイントは2つあったと感じています。一つは甲南大生と高校生が、一緒に考えること。高校生は自分たちが暮らす地域のことをよく知っています。一方、甲南大生は大学の教育の中で高校生より高度な専門的知識を得ています。それぞれが感じていることや気づき、また知識、知見を融合することで、課題解決のアイデアがどんどん広がると期待しました。

もう一つは、そもそも「SDGsって何だろう」を考えること。社会課題の解決策を考える時、「行政（社会）がすべきこと」に着目するあまり「自分事」の視点が抜けてしまいがちです。それは決して間違ってはいませんが、そもそもSDGsとは行政だけではままならない課題を、私たち市民の一人ひとりが考え達成するための目標です。その精神に立ち返り、行政の目が届かない身近な周囲に目を配り、私たちにできることを考えようと、チームにはアドバイスをしました。

岡山市チームが意欲的に地域の声に耳を傾け、自分たちにできることを試行錯誤し考案した「Language Exchange Game」は、外国人同士、また日本人も含め、互いにことばを学び合うもの。ゲームだから自然と楽しいコミュニケーションを生み、お互いの文化まで理解し合う、母国を離れ孤独に暮らす方々と地域をつなぐ大きなきっかけになりました。また、外国人住民との共生を模索する地域のどこでも、すぐに始められるすばらしい提案になったと思います。

Participation Report
参加レポート

マネジメント創造学部
4年次
増田（ますだ） 夏音（かのん）さん

自分事ととらえることからスタート、SDGsは身近な生活課題と気づきました

地域の声から、課題の根っこに気づく

私たちが普段生活をする空間に外国の方々がいることは、特別なことではなくなり、多文化共生は身近で向き合うべきテーマだと感じていました。また、石川先生にアドバイスをいただいたように、高校生と大学生の10～20代の視点で課題を見据え、私たちにできることが大切であることに留意しました。

そうしてスタートしたプロジェクトでは、フィールドワークを通して、岡山市の職員や地域住民の方々からの声をたくさん聞き、改めて〝ことばの壁〟が根源的な課題だと実感。それが理由でコミュニケーションをとることから遠ざかり、わかり合えずにお互いに、ぎくしゃくしたり孤立したりしているんだと思いました。

「多文化共生」から「共生」へ意識を転換

同様にフィールドワークを進めるうちに、みんなが「多文化」ということばに違和感を覚えるようになりました。国籍や文化が異なることで、当然のように線を引いてしまって、無理やり線をなくそうと…。そもそも、同じ

一人の人間だから多文化共生ではなくシンプルに「共生」ととらえ、みんなが共生できるまちづくりを考えるようになり、プロジェクトの目標が深まりました。それからは「日常生活で誰もができることがいいね」や「やっぱり、楽しくないと持続しないよね」など、意見が一層活発に。振り返れば共生することを、自分たちが抱える身近な課題ととらえるターニングポイントだったと感じています。

また、そのように考えるようになったのは、当事者である地域の方々のリアルな声が聞けたから、考えるだけでなく行動することの大切さを学びました。

SDGsは特別じゃなく、日常生活の目標

企業や大きな組織でしかできないと思っていたSDGsですが、プロジェクトに参加して個人でもできることはたくさんあることが学べました。また、大学で学んだ福祉政策についての知識が役立ったことや、リーダーとしてみんなの意見をファシリテーションする経験を得たこと、先入観にとらわれない高校生のユニークな発想に触発されたことなど、多くの収穫を得た経験でした。卒業後も社会人として、みんながしあわせに共生できる社会づくりのために、私ができることに取り組みます。

Participation Report
参加レポート

経営学部
3年次
前原（まえはら） 庸右（ようすけ）さん

僕たちのアイデア一つでしあわせな社会づくりが実現できる

SDGsは経営学のテーマでもある

授業で住民自治や企業が持続的に発展していくための環境経営を学んだことがあり、SDGsの存在は知っていたし関心がありました。また、岡山出身で高校生のころ暮らしていた地域でも、多くの外国人がいて、彼らは外国人だけで行動しているところをよく目にしていました。

打ち解けて共生することができたら、日本人・外国人住民双方にとって、もっと住みやすいまちになるのにと感じていたことと、地元である岡山に貢献したいという思いで、プロジェクトへの参加を決意しました。

〝個〟がわかり合える理想のまち

グループワークでは「理想のまちってどんなまち?」をテーマに、徹底的に意見を出し合いました。そして、理想のまちと実際のギャップに着目していく中で、「個を尊重し合う」重要性が見えてきました。国籍や文化、宗教などの属性を取り払った〝個〟と〝個〟が尊重し合うということです。それを可能にするには、それぞれの違いを意

識したうえで認めること。相手をよく知るためには、やはりコミュニケーションが肝心で、それを楽しくできる点でゲームというアイデアは良かったと感じています。

工夫一つで、人をしあわせに

僕は立ち会えなかったのですが、中国とベトナム出身の方を交えチームの高校生たちが、実際に考えたゲームを試したときは、みんなが打ち解けて盛りあがったと聞いています。そして、ゲーム中、高校生の「日本に来て何が楽しかったですか?」という質問に、参加した中国の方が「今がいちばん楽しい」と答えられたエピソードに、僕たちのチームを誇りに思いました。

ほんの小さなことでも、工夫をすればお金をかけなくても人をしあわせにすることはできるし、共生する仲間としてウィン・ウィンの関係が築けると実践を通して学べました。

現在、ゼミで経営組織論を学んでいます。組織の雰囲気づくりや人間関係を良くすることで、経営パフォーマンスを高めることがテーマです。今回、外国人住民の方の思いに寄り添おうと努力した経験は、専攻する学びをさらに深化することに、きっと役立つと考えています。

Topic

Language Exchange Game を実践!

昨年12月、岡山市立西大寺公民館で岡山学芸館高等学校二年生の生徒12名が中心となり、日本語教室に通うベトナムと中国出身の生徒2名とともに考案したゲームを行いました。最初こそ戸惑いと不安の表情を見せていた生徒も、同校の留学生が母語を交えサポートについたおかげで徐々に緊張がほぐれ、テーブルには笑い声が。提案だけにとどまらず、活動の輪が地域に広がっています。

岡山市の担当者からコメントが届きました

岡山市市民協働局
市民協働部ESD推進課
課長補佐
岩田（いわた） 裕久（ひろひさ）さん

岡山市では2005年からESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでおり、今回のプロジェクトはまさに人材の育成をめざすESDの取り組みだと感じました。

参加した学生たちは、多文化共生というテーマに沿って、地域課題をSDGsの視点から自分たちで掘り起こすことができ、地域の拠点である公民館を活用した、実りあるフィールドワークが実践できたと思います。また、課題の解決策として考え出された語学ゲームも、実践につながる具体的な提案であり、実際に西大寺公民館で実施されました。

今後も、このような学びと実践を通じた、若者による持続可能な社会づくりの取り組みを期待しています。

since 2015

甲南大生の挑戦を可視化する KONAN サーティフィケイト

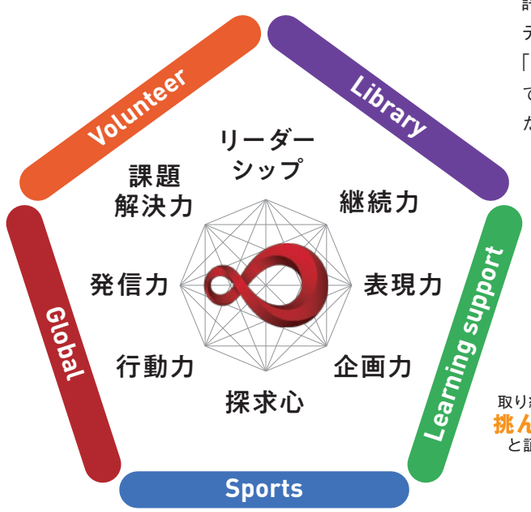
大学生活で身につける力は、学部・学科で学ぶ専門力だけではありません。国際交流やスポーツなどを通じて学んだことは、成績評価に表れにくいですが、大切な力となります。甲南大学は「人物教育率先」の理念に基づき、学生がもつ力を評価認定する「KONAN サーティフィケイト」制度を設けています。

目標をもち意欲的に取り組む学生が増えています

KONAN サーティフィケイトは、個々の学生がもつ個性を伸ばすための取り組みで、甲南大学らしいユニークな制度です。私は、本学就任前、企業で新卒採用にかかわる仕事をしてきましたが、この制度を通じて取り組んだ学生の経験が社会でも生きるのではと、企業の視点からも期待しています。1年次のキャリアデザイン科目で「大学生活の具体的プランを考える」という内容の授業を行いました。その時、大学生活の目標をもたずにいた何人かの学生が、この制度を紹介することで「興味がある」「やってみたい」と挑戦を始めました。この始めやすさも制度の特徴の一つです。サーティフィケイト認定学生も年々増え、現在1,000名を超える在学生が、認定されることをめざして、自身の個性や特性と向き合いながら活発に活動を行っており、「人物教育率先」の理念を実現する制度として定着していると強く実感しています。

共通教育センター
特任准教授 武田（たけだ） 佳久（よしひさ）

選択した分野の活動に取り組む中で、さまざまな力を伸長



評価する活動分野は「グローバル」「ボランティア」「ライブラリ」「ラーニングサポート」「スポーツ」の5つ。分野ごとに、3級から1級までの認定要件が定められ、活動の実績に応じた等級を、大学が公式に認定しています。

授与される認定記念バッジ

1級 ゴールド
2級 シルバー
3級 ブロンズ

3〜4月に開催する「KONAN サーティフィケイト認定証授与式」では、学長直々に認定証などを授与します。また、式典後にはティーパーティーを催し、認定学生同士や教職員との交流を図っています。

Library

挑戦とその成果を評価されたことが、意欲的な学生生活につながっています

中学時代から1日2冊のペースで読んでいたほどの本好きです。そうした読書熱を評価してもらえる制度として、KONAN ライブラリ サーティフィケイトがあることを知り、入学後すぐにエントリーしました。

認定取得をめざし、さまざまな活動に取り組みましたが、特に楽しかったのが「教員インタビュー」です。先生の意外な一面に触れ、年齢を重ねても趣味をもって読書する大切さを教えていただきました。「図書館での企画・展示」では、古典作品の面白さを伝えようと『今昔物語』など説話集を集めた企画を考え、ブースを設置。理系学部の授業とは異なる学びが経験でき、魅力の再発見もできました。

3級から2級、1級へと挑戦を続ける中、学科の勉強との両立やスケジューリングは大変でした。でも、この経験が卒業研究の取り組みに役立っています。いつまでに何をすべきかを考え、時間を管理する力が身についたのは、サーティフィケイトに挑戦したからこそ。学長から直接認定証を授与いただけるのがうれしく、励みになりました。

ほかにも、グローバルとラーニングサポート サーティフィケイトにも挑戦するなど、大学入学前からは想像できないほど積極的になりました。挑戦と成果を評価される喜びが、成長や自信につながったと思います。

知能情報学部 知能情報学科 3年次
藤澤（ふじさわ） 舞（まい）さん

所属する研究室では、AI時代に向けた最先端の情報技術の研究に取り組んでいる。今後さらに自身の研究を深め専門性を高めるために、海外も視野に入れた大学院への進学を検討中。

Learning support

学生視点で他学生の学習をサポート 社会で応用できる対応力を養いました

幼いころから、休日も練習に費やすサッカー漬けの日々を送ってきました。そのため、大学では「新しいことに何でも挑戦したい」という思いが強くあり、入学後、KONAN サーティフィケイトの認定制度を知り、「これだ！」とすぐにエントリーしました。

ラーニングサポート サーティフィケイトは、他学生への学習サポートを率先して行う姿勢と、その活動を通して培った力が評価されます。私は現在、法学部のベーシックキャリアデザインという、アクティブラーニング型授業でラーニングアシスタント（LA）を務めています。主な活動は、グループワークなどで困っている学生に声をかけたりしながら学習が円滑に進むよう工夫することです。ときには司会進行を任されることもあります。心がけているのは、学生の視点に立ったサポートをすること。そのためにしっかり考えて行動するようにしています。現在は、学生のやる気をより引き出せる授業内容を企画中です。

LAの活動を通じて、初めての状況を適切に処理する対応力が磨かれました。これは社会に出てからも役立つ力だと感じています。現在はほかにも、ボランティアとスポーツ サーティフィケイトにもエントリーしており、異なる分野でそれぞれに目標をもてたことで、思い描いていた以上に学生生活が充実しています。

経済学部 経済学科 1年次
上村（かみむら） 圭史（よしふみ）さん

スポーツでも「新しいことに挑戦したい」と体育会ヨット部に入部。自然を相手に今は圧倒されてばかりだが、よい戦績をあげ、サーティフィケイト認定につなげられるよう練習に励んでいる。

規制か？啓蒙か？ インターネット犯罪から 青少年を守る方策

情報化社会の進展とともに若者を取り巻く環境は大きく変化しました。特にSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を介した事件の増加が問題視されています。青少年をインターネットの有害情報から守るために、社会は、そして私たち大人は何をすればよいのか。ネットワーク犯罪や青少年有害情報規制研究の第一人者として幅広いメディアで発言し、弁護士としても活躍される園田寿教授にじっくりとお話を伺いました。

インターネットの発展に追いつかない倫理と法律

刑事法を専門にネットワーク犯罪、児童ポルノ規制、青少年有害情報規制などを主な研究領域としています。インターネットの進歩をつぶさに見てきた法律家の一人として痛感するのは、ドッグイヤー（人間の数倍とされる犬の成長速度）と形容されるインターネットの発展に、私たち人間の倫理や法律がいまだに追いついていないということです。1990年代後半ごろから目立ち始めた青少年のネットトラブルに起因した犯罪は、2004年の佐世保小6女児同級生殺人事件によって世間の耳目を集めることとなりました。被害者である女児がホームページのチャットに書き込んだ内容が直接の原因となった点において、現在のSNSを介した犯罪の原点の一つといってもよいでしょう。しかし、あの衝撃的な事件から15年余を経てもなお、真に有効な解決策は見いだせていません。もちろん国も手をこまねいているわけではなく、2018年には、青少年インターネット環境整備法が改正・施行され、スマートフォンなど携帯端末の販売業者にフィルタリング有効化措置（フィルタリングを設定して販売すること）が義務化されました。情報化社会においてトラブルや犯罪を完全になくす特効薬は存在しませんから、青少年の安全に役立つ法律の整備はむろん重要です。しかし、フィルタリングという受信側の規制に限界があることは、誰もが認めざるを得ない事実でもあります。このことをふまえて私たち大人は、青少年保護のために何ができるのかを考えなければならないのです。

デジタル情報は、現実が変形した「ごまかしの世界」

インターネットは、その革新性によって人々の意識や社会構造に劇的な変化をもたらしました。情報化の加速度的流れを止めることは、もはや誰にもできません。しかし、その勢いに流されないために忘れてはならないことがあります。それは、デジタル情報は、「ごまかしの技術」だということです。そこには、私たちが生きる現実世界の匂いや味、温度、感触、何となく感じる場の雰囲気…といった複雑で繊細な情報はありません。みずみずしく生き生きとしたアナログ情報がすべてそぎ落とされているからです。

最近では、4Kや8Kといったスーパーハイビジョン技術によって美しく精緻な映像を楽しむことができるようになりました。まるでそこに実物が存在するかのようにリアルに見えますが、いかに高解像度の映像であってもたとえば花の香りが漂うことはありません。おいしそうな料理の映像も実際に味わうことはできないのです。バーチャルリアリティは、その最たるものといえるでしょう。すべては、「幸福な錯覚」なのです。「デジタル世界に取り込まれたとき、現実は変形される。そこにあるのは、ごまかしの世界であり、決して現実ではない」。この厳然たる事実を子どもたちに教えることこそが、私たち大人が果たすべき役割だと考えます。デジタル化によって現実はどのように変形されるのか。その変形のプロセスを丁寧に教えることができれば、子どもたち自らがネットトラブルや犯罪から身を守る力になるはずです。

皮肉にも、情報過多の時代が情報の「貧困」を招く

かつての日本では、犯罪原因の多くを物質的貧しさが占めていました。しかし現代は、人間関係の貧しさが重大な犯罪原因となっています。SNSを介した青少年事件やストーカー犯罪などの根底には、情報過多の時代にありながら、人間としてどのような行動をすべきかを判断する基礎となる情報そのものの不足があるように思えてしかたありません。先ほどデジタルは「ごまかしの技術」だとお話ししましたが、コミュニケーションにおいても同じことが言えます。実際の会話では、言葉の内容とともに声や表情、ジェスチャーなど全人格的な表現を受け渡しできますが、インターネット上の文字情報では、それらがそぎ落とされてしまいます。みなさんもメールの文面が過度に丁寧になったり、LINEにスタンプを多用してしまった経験があるのではないでしょうか。誰しも相手に誤解されるのではないかという潜在的な不安を感じている証拠です。子どものころからリアルな体験が不足したままデジタル情報にばかり触れていると行動判断の基礎となる情報の「貧困」を招きます。情報過多の時代に情報不足に陥るという皮肉な現象が、他者の心を推しはかる能力の成長を阻害し、最悪の場合には、「人間関係の貧しさ」による犯罪という悲劇を招くことを忘れてはなりません。

そうならないために、子どもが親に絶対的な信頼を寄せる小学校中学年ころまでにアナログ情報にたっぷりと触れさせてほしいと思います。美術館で絵画を見たり、コンサートホールでライブ演奏を楽しんだり…。思いきり外遊びをするのも、サッカー場や野球場で観戦するのもいいでしょう。親の干渉を嫌い始める思春期までは、子どもの行動をしっかりと監視するとともに、この世界がいかに豊かでみずみずしい情報に満ちているかを多くの実体験を通じて教えてください。「現実」や「本物」に触れれば触れるほどデジタル世界の「ごまかし」を見抜き、スマホやインターネットを有効に使いこなす力が養われます。

過度な規制に抗い、青少年の自律性を育む社会へ

インターネットの急激な発展に比べて法律の改廃には長い時間がかかります。しかし、現実の犯罪にすぐさま対応できないからといって法律を拡大解釈して適用する傾向には警戒が必要です。特に刑法の領域において法律を踏み込んで解釈しようとする動きが顕著にみられますが、それは三権分立の原則に鑑みて非常に危険だと言わざるを得ません。人々の処罰感情がどれだけ強くても、「現行法の範囲では無罪にするしかない。処罰するためには法改正が必要」という本来の道筋から逸脱してはならない。この点については、刑法の専門家として警鐘を鳴らし続けたいと思います。

また、青少年を保護するためなら何でも立法化してよいという考え方にも危うい側面があります。地方自治体によっては、スマホの利用時間や利用方法を細かくルール化する動きが見られますが、これは本来、それぞれの家庭が対処すべき問題です。昔に比べて家庭や地域コミュニティの連帯感が希薄化しているため行政の介入が必要な場合もありますが、過剰な規制は、子どもたちの自律性の軽視につながりかねません。先ほどからお話ししているようにアナログ情報に触れさせながら、スマホやネット利用に関する教育と啓発を丁寧に行うことに力点を置くべきです。

インターネットに弊害があっても法律の拡大解釈や過度な規制によって民主主義の根幹である表現の自由や情報の流通を損なってはならない。これもまた青少年の未来を守るために、私たち大人に課せられた使命なのです。

法科大学院
教授 園田（そのだ） 寿（ひさし）

関西大学大学院法学研究科博士課程修了。ネットワーク犯罪研究の先駆者として活躍し、2004年から現職。兵庫県公文書公開審査会委員・大阪府青少年健全育成審議会委員などを歴任。乃南アサ氏との共著『犯意』（新潮文庫）や『エロスと「わいせつ」のあいだ』（朝日新書）など著書多数。囲碁とジャズを愛する。

外国人

わが家に留学生がやってきた！

座談会「涙と笑いのホームステイ」

甲南大学の国際化を支えてきた留学生受入プログラム（Year-in-Japan）は、40年以上の歴史を誇ります。その目玉の一つがホームステイ制度。欧米を中心とする各国協定校から来日した外国人留学生たちは、ホームステイ制度を通じ、日本人の一般的な家庭生活を経験することができることから、ホームステイは本学へ留学することの目玉の一つとなっています。つまり、留学生を家族の一員として受け入れてくださっているホストファミリーのみなさんが、このプログラムを支えてくださっているともいえます。外国人である留学生との生活は、きっと楽しいだけではなく困難もあるはず。当座談会では、5組のホストファミリーの方々にお集まりいただき、受け入れのきっかけや家庭の国際化など、留学生との毎日についてお話を伺いました。

こんなに楽しいなんて。もっと早くから始めておけばよかった

——ホストファミリーにチャレンジすることになったきっかけを教えてください。

大利さん：娘が留学先のイギリスでホームステイを経験し、帰国後「うちもホストファミリーをしよう！」と言い出したのがきっかけです。新聞で甲南大学のホストファミリー募集の記事を見つけ、娘が申し込みました。娘に押される形で受け入れを始めたのですが、私自身が楽しくなって、娘が嫁いで家を出た後も、ずっと留学生をお預かりしているんですよ。

田中さん：わが家は夫のひとことがきっかけでした。30年ほど前、英語を身につけたいと考えた夫が「留学生を預かるぞ」と突然決めてきました。私自身は「どうしよう」と不安でしたが、初めて迎えた留学生がとてもいい子で、私の料理も「おいしい」とたくさん食べてくれて。それ以来ホストファミリーをやめられなくなりました。最初の出会いがよかったんですね。こんなに楽しい経験ができるなんて、もっと早くから始めておけばよかったと思ったくらいでした。

川田さん：私は東日本大震災の直後に「私も何かしなきゃいけない」と思ったことがきっかけでした。海外のニュースで「日本は危ない国だ」と報道されていると知り、ショックを受けていたんです。阪神・淡路大震災のときは学生だったので、被災地でボランティア活動ができましたが、すでに3人の子どもをもつ身となっていた私には、それも難しくて…。そんなとき偶然、甲南大学のホストファミリー募集のチラシを目にしました。「この状況で日本に来てくれる留学生がいるんだ」とわかって心が救われ、留学生の受け入れを決めたことで「何かしなきゃ」と思い詰めていた気持ちが行動に結びつきました。

大利 慶子（おおとし けいこ）さん

留学生から「お母さん」と呼ばれて30年以上。甲南ホストファミリーの大ベテラン。ご子息が甲南高等学校・中学校の卒業生。

大切な家族が増える。そんな喜びがあります

——みなさんは長くホストファミリーを続けてくださっています。しかも、9か月間という長期プログラムの留学生を受け入れてくださっていて、相当大変だと思いますが、原動力は何ですか？

唐崎さん：留学生は、毎年9月に来日して、翌年5月に帰国するんですよね。長いと思われるかもしれませんが、私は留学生を送り出して1か月も経つと、次はどんな出会いがあるのかと、楽しみになってきます。いい出会いがたくさんあるからなんですよ。

再び来日して、日本で結婚した留学生もいます。彼らがしあわせに暮らしているのが何よりうれしいです。先日も、初めて受け入れた留学生の息子さんが遊びに来てくれました。彼は、日本に留学中の高校生で、「お父さんから『日本に行ったら必ず唐崎さんを訪ねなさい』と言われていたので、来ました」と。一期一会の出会い、再会の喜びを感じました。

大利さん：そうしたご縁の喜びが、ホストファミリーを続ける大きな力になっていますよね。私は留学生のご両親とも仲良くなることがあって、海を越えてお互いの住まいを行き来するなどの交流を続けています。その留学生のお子さんも今、東京に留学中で、「いずれ、神戸の学校でも勉強したいので、お母さん（大利さん）のおうちでお世話になりたいから」とホストファミリーを続けていてね」と言われています。まだまだがんばらないと！（笑）

川田さん：わが家は昨年の春、最初にお預かりした留学生の結婚式に参列するため、家族5人でフランスに行きました。

フィアンセのご実家にホームステイさせてもらい、子どもたちも貴重な経験ができ、ありがたいご縁だなと思いました。

西田さん：私の場合は、息子3人が巣立った今、留学生が居てくれるのがボディガードのようで、心強いです。朝6時に起きて朝食を用意して洗濯をする、といった規則正しい生活を送っていられるのも、彼らがいてくれるからこそです。毎日張り合いがありますね。

田中さん：やっぱり留学生の成長がうれしいですよね。来日したときは、たどたどしい日本語で幼い印象の彼らが、語学だけでなく、人間としても成長する。それを間近で見られるのが何よりも喜びとなっています。

気持ちを尊重して丸ごと受け入れれば心を開いてくれます

——文化の異なる留学生との生活には、どのような大変さがありましたか？

西田さん：偏食が激しく、部屋にこもったきりという留学生がいました。私の子育て経験にはなかったことが起こり、どうしようかと悩みました。

けれども彼とじっくり話をし、彼のすべてを受け入れようと決めると、彼も私を受け入れてくれるようになりました。「自分の机の前がいちばんリラックスできる」と言う彼の気持ちを尊重し、つかず離れず、私の常識を押しつけないよう心がけました。しばらくすると、「自分の国よりも楽しい」と言ってくれるようになりました。

私が大事にしているのは、来日時よりも日本語が上達し、さらに健康になって帰国してもらえるようサポートすることです。ご家

田中 弘子（たなか ひろこ）さん

これまで約30人の留学生を預かってくださっているベテラン・ホストファミリー。留学生たちとインターネット電話で交流を継続。

族からお子さんを預かっているという意識が強いので、病気やケガのないように気をつけています。

田中さん: 私も、一時期お預かりしていた女子学生への対応が難しく、困った経験があります。その子は、母国で継母との関係がうまくいっていない経験をもっていたようで、ことば数が少なく、コミュニケーションがとても難しかったんですよ。私にはどうすることもできませんでした。

ところが、クリスマスに母国へ一時帰国しその後日本に戻ってきたら、彼女の様子が一変していたのです。私は、「ああ、継母が温かく迎えてくれてあげたから、彼女の気持ちがほぐれたんだろう」と思っていました。でも、向こうのご両親は、「娘が日本で成長して帰ってきてくれた。ホストファミリーのおかげだ!」と思ってくれていたようです。私としては、何も特別なことはしていなくて、どの留学生にも同じように接してきただけなのですが…。以後ご両親と私たち夫婦もとても仲良くなりましてね…。オーストラリアを1か月間一緒に旅行したり、彼女の卒業式や結婚式にも参列しました。苦労が喜びに変わった経験ですね。

大利さん: そう、苦労は喜びに変わりますよね。わが家も心に大きな悩みを抱えた留学生を受け入れたことがありました。母国の家庭事情が関係していたようです。でも一緒に暮らすうちに彼は私のことをとても信用してくれて、大学から帰ってくると必ず「お母さん」とハグしてくれて、温かな心の交流ができました。留学生も大切な家族です。本当に特別な対応はしてないんですけれど。

留学生を通じて世界の多様な価値観に触れ、子どもが変わりました

——留学生をわが子のように考えてくださり、彼らがホストファミリー制度によって授業時間やキャンパス外でも成長しているということがよくわかりました。ホストファミリーとして多くの留学生を受け入れたことで、ご家庭に変化はありましたか?

川田さん: 国際化というか、子どもたちが多様な価値観に触れて変わりましたね。あるとき、留学生が、受験勉強をしている子どもに対して「何で日本の勉強はこんなに暗記が多いんだ?僕たちは自分で考える力をつけるために勉強しているよ」と言って、「こうでなければならない」といった日本的思考のような ものを、いい意味で外してくれたんです。

レポートも日本は教科書に書かれていることをまとめますが、彼らは自分の考えをまとめます。留学生は子どものレポートに対して「これは君の考えか」と問いかけてきます。留学生と接することで、日本で通用しても世界では通用しないことがある、と気づくことは子どもにとって大きな意味があると思います。

にしだ まさこ
西田 雅子さん

甲南ホストファミリー歴10年弱。3人のご子息が巣立った今は、他大学の外国人留学生も受け入れられています。

唐崎さん: うちの場合は、住んでいる地域が国際化し盛り上がっています。わが家の留学生は地域のお祭りや芋掘り、グラウンドゴルフにも参加しているので、夏前になると地域の人が「次はどんな子や?」と聞いてくださり、留学生が来るのを楽しみにしてくれています。

西田さん: 私は「クリスマスにこんなケーキを食べたい」と、見たこともないようなケーキづくりを頼まれたことがありました。インターネットでいろいろと調べて、アメリカ南部の伝統的なお菓子、真っ赤なレッドベルベットケーキを作ったのですが、とても喜んでくれて、うれしかったですね。彼のおかげでアメリカの伝統的なお菓子の存在を知って、作る機会にも恵まれました。ホストファミリーをしていると、そうした異文化を学ぶ機会がたくさんあります。また、ときどきわが家に遊びに来る孫たちは、まったく物怖じせずに留学生とコミュニケーションをとれるようになっています。これも国際化ですね。

からさき みどり
唐崎 緑さん

甲南ホストファミリー歴約30年以上。ご子息がオーストラリアでホームステイを体験し、それをきっかけに留学生の受け入れをスタート。

生活を変えず自然体でホストファミリーを楽しんでください

——留学生の受け入れに興味をおもちの方の中には、食事や洗濯、プライバシーの尊重のしかたがわからない、という方も多いと思います。ホストファミリーに挑戦したいと お考えの方に、アドバイスをいただけますか。

唐崎さん: 食事は、最初の頃に大皿に盛って出すといいと思いますよ。個々のお皿に入れて出すと、食べたくないのに残すことに躊躇するでしょうが、大皿だとお互いに気を使わず、好きな食べ物もわかります。「ごちそうさま」の口調や態度で、彼らの気持ちを推し量っています。

川田さん: 私は仕事をもっているので、夜遅くなるときは留学生や家族とは一緒に食事することができません。でも、必ず朝のうちに夕飯の支度をしておくんです。そうすると、私が帰宅して一人食事をしている隣に留学生が座って、「お母さん、今日仕事どうだった?」とか「大学でこんなことがあったよ」と話かけてきて、料理の感想を聞かせてくれるんですよ。朝、仕事前に早く起きて夕飯の準備をしている私のことを気遣ってくれているのでしょうか。こんなときは、「あぁ、大変だけど、準備しておいて良かった」と思います。同じものを食べることは大事ですよね。

西田さん: わが家の留学生は男子学生で、私が彼らの衣類を洗濯しています。枕カバーやシーツを洗濯する日は、朝に「今日は部屋に入って洗濯物を取るからね」と伝えておきます。彼らのプライバシーを尊重することを忘れません。

田中さん: わが家は女子学生なので、洗濯は自分で好きな時間にやっています。最初に「洗濯機は自由に使ってね」と話をしておくので、問題はないですね。

生活全般においては、ルールを共有し、はっきりと「イエス・ノー」を言うように心がけています。はっきりと言うことでかえってコミュニケーションが円滑になりました。

甲南大学はホストファミリーが集まる機会をよくつくってくださって、ホストファミリー同士で情報交換ができるのでありがたいですね。昨今は心の問題を抱えている学生も見受けられますが、メンタルヘルス関連の講習会もホストファミリー向けに開かれるので、そういう場を活用すれば困ったことも解決できると思いますよ。何かあれば、大学の国際交流センターにすぐに相談しています。

大利さん: 留学生は事前にオリエンテーションを受けてから家庭に来るので、食事や水回りの使い方、プライバシーの尊重のしかたもわかっている子が多いんですよ。私は、留学生も家族の一員と思っているので、ごく自然に生活しています。お腹をすかせて大学から帰ってくるので、いっぱい食べさせてあげたいと思っています。贅沢なものではなく気負わずに普段の家庭のお食事を出せばいいと思います。ホストファミリーに興味のある方は、ご自分の普段の生活を崩さずに、自然体で始めてみてはいかがでしょうか。

ホストファミリーのみなさんが、本当に温かく留学生を受け入れ、日々の生活をサポートしてくださっていることがよくわかりました。このたびご登場いただいた方々を含むすべてのホストファミリーのみなさまに深く感謝もうしあげます。

かわた ひろこ
川田 博子さん

甲南ホストファミリー歴8年。3人のお子さんをもつワーキングマザー。家族共通の趣味である音楽を通じて留学生と交流。

ホストファミリー募集!

留学生をあなたの家族の一員として受け入れてみませんか?

受け入れ条件

- ご自宅から甲南大学までの通学時間が1時間以内
  (大学最寄り駅:阪急岡本・JR摂津本山より徒歩15分)
- 平日(朝・夜2食)、休日・祝日(3食)の食事提供
  ※各ご家庭の普段通りの食事で結構です。
- 5〜6畳程度の個室と生活に必要な備品をご用意ください
  (寝具一式(ベッド/布団)、机、収納スペース、冷暖房器具、インターネット(Wi-Fi)等)

資料請求

甲南大学 ホストファミリー 検索

https://www.konan-u.ac.jp/kiec/other/overview/

お知り合いでご興味のある方がいらっしゃいましたらぜひご紹介ください

滞在費補助

①短期滞在:6月初旬〜7月中旬 6週間(76,500円)
②半期滞在:約4〜5か月間(月額66,300円)
秋学期:9月〜12月末/春学期1月〜5月末
③長期滞在:9月初旬〜翌年5月末(月額66,300円)
※月によっては金額が変わる可能性があります。
※日程詳細はホームページにてご確認ください

お問い合わせ

甲南大学 国際交流センター
〒658-8501兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
Email: kiec-in@adm.konan-u.ac.jp
TEL: 078-435-2750
[開室時間] 月〜金(9:00〜18:00) 土(9:00〜13:00)

高中 KONAN BOY'S HIGH SCHOOL TOP!CS

快挙！ 甲南 高等学校将棋部

令和最初となる全国大会でついに覇者に！

2019年7月に佐賀県で開催された「第43回全国高等学校総合文化祭将棋部門兼第55回全国高等学校将棋選手権大会」の男子団体戦で、実力校を次々と倒し見事初優勝。快挙を成し遂げた、将棋部をクローズアップします。

中高合わせて25人の部員を擁する将棋部。うち11人の高校生の中から小路さん、畑山さん、村井さんが団体代表として全国大会へ出場しました。県予選決勝では、昨年の県代表、灘高校へのリベンジを果たし、その勢いのまま全国大会予選リーグ戦は全勝。予選一位通過で決勝トーナメントに挑み、決勝では強豪、愛知工業大学名電高校（愛知）を下し、見事全国優勝しました。

将棋部が、全国大会出場を機に同好会から部へと昇格したのは19年前（2001年）。以降4度出場を経験し、2015年に準優勝して以来4年ぶりとなった2019年春合宿で、部内の選考会を勝ち抜いた3人を見た顧問の塩見恵介教諭は、「最強の布陣が生まれた」と確信したといいます。物怖じしないムードメーカーの小路さんが大将、エース級と対戦する確率の高い副将は誰とでも接戦にもち込める知性派の畑山さん、そして三将には自然体で勝率が安定している村井さん。3人が1チームとなり、対局した結果の勝利数が多いほうが勝ちとなる団体戦において、おのおのが持ち味を存分に生かし、バランス力と総合力により勝利を引き寄せました。

「自分との戦いでもある個人戦と異なり、団体戦は自分が負けたらチームに迷惑がかかると、ひと踏ん張りできる」（小路さん）と語るように、プレッシャーの中にも他を思いやる心でチームワークを育んできた甲南高校将棋部。新たな布陣で迎える新チームでも、全国連覇をめざします。

三年E組 小路 優輝（しょうじ ゆうき）さん

大将として信頼されること、優勝を信じてチームのムードを盛り上げることを大切にしてきました。対局では、時間配分を計り、トラップを張って誘い込み、それがハマったときが最高にうれしいです。今回もそんな棋風を生かせたと思います。幼稚園から続けている将棋なので、卒業後もずっと将棋にはかかわっていきたいです。

二年C組 畑山 敏輝（はたやま としき）さん

個人戦で初代表となった昨年は、全国大会の雰囲気に飲まれ自ら崩れることも多かったのですが、今年は自信をもって指せたことが大きな勝因になりました。自分の持ち味は、前半はスピード感ある指し方で相手のペースを崩し、後半で勝負をかけるところ。将棋のそんな駆け引きが楽しいです。来年の目標は、もちろん連覇です。

一年C組 村井 響（むらい ひびき）さん

クラブでは、仲間とリーグ式で練習試合をし、相手の表情が見えたり、ミスしたり、それに気づいたり…という、ネット将棋にはない駆け引きのスリルを楽しんでいます。今大会は、初めてのすごい舞台で緊張したまま、トントン拍子で全国制覇。うまく行き過ぎて怖いですが、自信をもって次につなげたいと思います。

100周年記念

令和元年度 甲南 高等学校・中学校 育友会 主催 文化講演会「ソフィア」・演奏会＆親睦会

9月26日、神戸ポートピアホテルにおいて、学園創立100周年を記念した、2019年度第2回文化講演会「ソフィア」ならびに、演奏会、親睦会が開催されました。当日は中高生のほか保護者を加え総勢約1600名の参加者が、100周年を記念する会を楽しみました。

講演 「世界に通用する紳士」をめざして！ 黒田（くろだ） 卓也（たくや） 氏

幼稚園から大学まで甲南に在籍した黒田さんは、大学卒業後、単身で日本を飛び出しました。歌手のホセ・ジェイムズに見いだされバンドメンバーとして世界ツアーに同行、また、名門ブルーノートと日本人として初めて契約するなど、世界を舞台に活躍するトランペッターです。甲南中学校に入学した当時、高校生でブラスアンサンブル部に在籍する兄の勧めで、半ば強制的に始めさせられたことがトランペットとの出合い。「結果を考え立ち止まるとチャンスを逃す、勇気をもってチャレンジすることが大切」であることをユニークなエピソードを交え、紹介してくださいました。

講演 挑戦することの大切さ 桑田（くわた） 真澄（ますみ） 氏

野球解説者・野球評論家の桑田さんは、少年時代からの野球人生において味わった挫折と、それを乗り越えるためにとった行動についてお話しされました。まず、挫折から前進するためには、自分らしい方法を見つけ努力をすること、そして、決してあきらめることなく「挑戦することの大切さ」を熱く語られました。高校時代は甲子園通算20勝、読売巨人軍に進んだあとも、沢村賞や年間MVPなどの功績を残されたことに満足せず挑戦を続け、遂にはメジャーリーグでヤンキー・スタジアムのマウンドに立たれたエピソードに、会場は感動に包まれました。

いきなり演奏会!!

育友会会員のみなさま400名が集った親睦会では、講演会を終えたばかりの黒田卓也さんの演奏会が行われました。お仲間である李祥太（甲南OB）さん、時安吉宏さんとともに、千変万化の音色と即興をし、みなさまは手拍子とともに堪能しました。

～ 生徒の声 ～

高校生・中学生の感想

- 黒田さんは、とてもユニークな雰囲気の中、僕ら甲南生の心を鷲掴みにし面白くしてくださったことが印象深いです。（高三）
- 僕も黒田さんのようなメリハリのある喋り方で客を魅了できるような人になりたいなと思いました。（高二）
- もしなりたい職業が見つかれば、黒田さんのように実現させてみたいと思った。（中3）
- 桑田さんの講演のおかげでこれから先の物事や行事、挑戦に対する勇気とやる気がでました。（高二）
- 桑田さんがおっしゃっていた、「好きな事をするだけではなく、今の時代はなんでもそれ相応の技術が必ずいる、だからその技術をつけるために努力し続けなさい」ということばにとても感動しました。（高二）

「西宮ストークス」公式試合リーグ戦のエキシビションゲームで甲南高等学校・中学校のバスケットボール部が試合を開催

本学園がスポンサーを務めるB.LEAGUE所属のプロバスケットボールチーム「西宮ストークス」の開幕戦が2019年9月21日に、第19節が2020年1月25日に行われ、両日のエキシビションゲームで中・高バスケットボール部が試合を行いました。

※現在主将を務める谷直樹選手は大学OB（H23経済卒）です！

今回は「甲南学園創立100周年記念マッチ」として開催。9月は「甲南中学校vs.U15西宮ストークス」の試合が行われ、接戦の末、48対48の引き分け。1月の「甲南高等学校vs.東洋大学附属姫路高等学校」の試合では、終了間際でシュートを決められ、残念ながら65対66で逆転負けとなりました。結果はともあれ、プロの舞台で試合ができたことは、生徒のみなさんにとって貴重な経験となりました。

SNSで甲南大学の最新情報を発信中

甲南大学公式 Twitterアカウント
@konandaigaku
本学の魅力やイベント情報をつぶやきます。

甲南大学公式 Instagramアカウント
@konandaigaku
さまざまな視点から#甲南boy #甲南girlをご紹介します。

甲南大学公式 LINEアカウント
@konan_ch
入試やイベント、大学のニュースを配信します。

甲南大学受験生向け情報サイト 甲南Ch.

受験生が気になる情報を、日々アップデートしています。

https://ch.konan-u.ac.jp/

甲南大学オープンキャンパス 2020

全日程とも3キャンパス（岡本・西宮・ポートアイランド）同時開催を予定しております。
イベント内容等、詳細は決まり次第、甲南Ch.でご案内いたします。

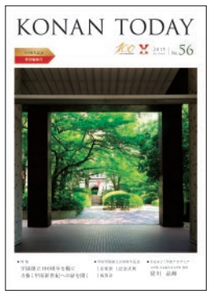
夏期オープンキャンパス	7月 12日 日 ／ 8月 2日 日 ▸10:00～16:00
秋期オープンキャンパス	10月 4日 日 ▸12:00～16:00

KONAN TODAY バックナンバーはホームページでご覧いただけます

みなさまが今ご覧になっている「KONAN TODAY」は、ホームページでバックナンバーをご覧いただくことが可能です。2000年5月の創刊号から最新号までPDF形式で掲載されていますので、数々の懐かしい記事や面白いトピックがいつでも読み返せます。甲南学園の歩みを伝える写真や文章にぜひ思いを馳せてみてください。

KONAN TODAYについて
郵送不要・住所変更の場合は、付属のアンケートハガキを返送してください。

「KONAN TODAY」バックナンバー



100周年記念広告が2019年度神戸新聞広告賞「銅賞」を受賞

昨年4月21日の学園創立100周年に合わせて、新聞各紙に記念広告を出稿しておりましたが、このほど神戸新聞朝刊に掲載した広告が「2019年度神戸新聞広告賞」の広告主部門で「銅賞」を受賞しました。神戸新聞広告賞は「既成概念にとらわれない新しい発想の新聞広告」を模索するために創設され、今年度は24作品が受賞しました。

創立者 平生釟三郎のことば「凡テ 人ハ 皆 天才デアル」と教育にかける思いを乗せて「百の才」と表現しました。

2019年4月21日付神戸新聞朝刊 ▶

第18代甲南大学長に中井伊都子（法学部教授）が就任

第17代甲南大学長 長坂悦敬（経営学部教授）の任期が2020年3月31日に満了することに伴い、第18代学長に中井伊都子（法学部教授）が就任します。

任期は、2020年4月1日から2024年3月31日までの4年間です。

創立100周年記念「甲南学園歌・甲南高等学校校歌」CDを製作

1月28日、甲南大学甲友会館において「甲南学園歌」「甲南高等学校校歌」のレコーディングを行いました。演奏は神戸市が誇るプロフェッショナル合唱団「神戸市混声合唱団」、そしてピアノは学園創立とほぼ同時期に製作されたスタインウェイ製の名器です。歌詞に込められた思いをしっかり表現することをめざし、納得がいくまで何度も歌う合唱団の熱意によって、学園創立100周年を記念する見事なCDができあがりました。

このCDには混声四部合唱による学園歌や校歌の2～5番など、これまであまり演奏されることのなかったものも収録されています。また同封の解説書には、画家 田村孝之介氏が甲南大学第1回卒業アルバムの挿絵として描いた、学園歌の一節「わがくるま 星につなぐ」をモチーフにした絵画を掲載しています。

※非売品のため、販売予定はありません。30ページの「PRESENT」で抽選で30名様にプレゼントをいたしますので、ぜひご応募ください！

「甲南学園歌・甲南高等学校校歌」CD

体育会の活動や戦績を発信中

体育会各部の活動や戦績、試合情報に加え、部の目標や主将の意気込みなどをfacebookの「甲南大学 甲南スポーツ」で発信しています。本アカウントは「KONANスポーツ応援プロジェクト」の公式アカウントです。

また体育会本部もInstagramにて、各部の戦績報告や紹介を行っていますので、ぜひご覧ください。

FIGHT KONAN スポーツ応援プロジェクト
@konan.sports

@konan_honbu

体育会サッカー部が一部昇格

11月23日、関西学生サッカーリーグ後期第11節、流通科学大学との試合が行われ、4対2で勝利を収めました。この結果、2部Aリーグで優勝となり、1部昇格となりました。同部は2019年度「1部昇格」という大きな目標を掲げ、試合に臨んできましたが、見事有言実行することができました。新主将の木村太哉さん（マネ3）は「強い甲南としてシーズン年間を通じて戦い抜き、目標である『1部残留』を達成して、未来の甲南が1部に定着し続ける礎を築きます」と来シーズンの目標と意気込みを語ってくれました。

岡本ぶらり 第7回

私たちが紹介します

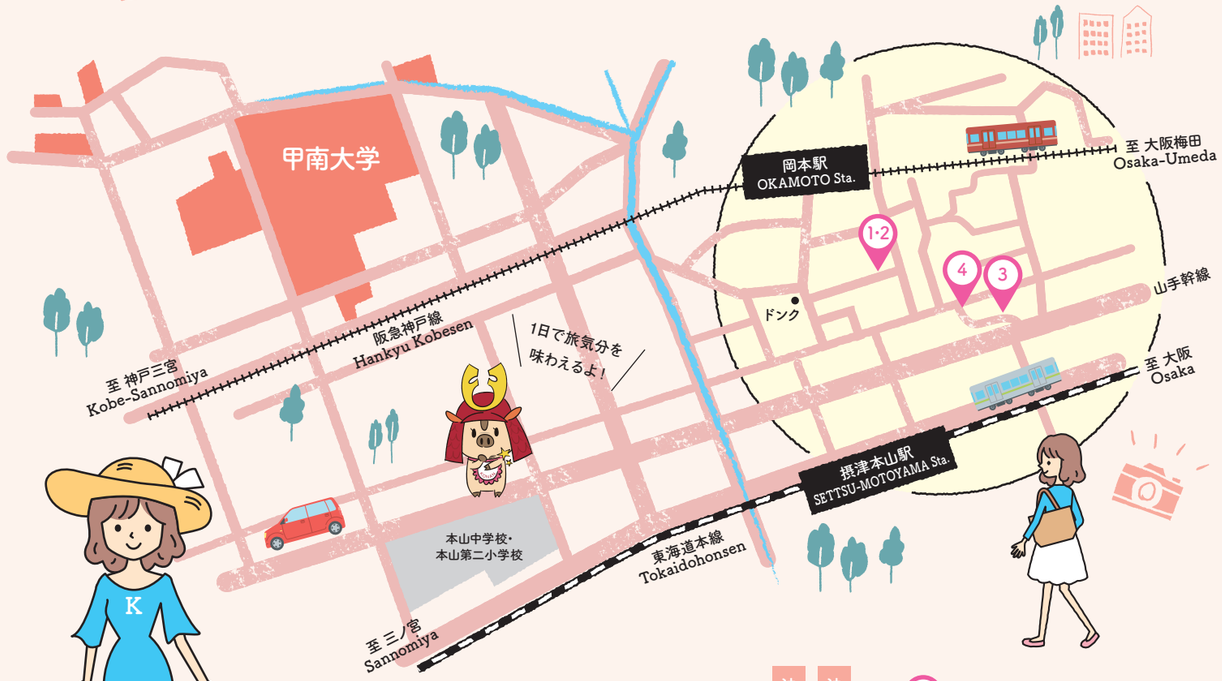
ナビゲーター/
もっとさん と なんぼーくん

「岡本」のまちをもっともっと知りたい!
好奇心旺盛な女の子と、ご存知甲南の公式キャラクター。

世界の国々やある地域にこだわったお店で、
岡本にいながら別の地へ思いを馳せる

旅する岡本

春本番、岡本を歩きながら旅の気分を味わってみませんか?沖縄や世界の国々からやってきた雑貨や本の数々。お気に入りを見つけた後は、インドやスリランカの紅茶が楽しめるティールームでひと休みしましょう。



1 まめ書房

【営業時間】11:00〜19:00
【定休日】水曜日・木曜日
【TEL】090-8209-3730
【住所】神戸市東灘区岡本1-12-26
マンション藤105

沖縄の奥深い魅力を発信してきたお店。沖縄の歴史、戦争を乗り越えてきた伝統工芸や音楽、豊かな自然や暮らしの知恵。さまざまな角度から沖縄を伝える本や工芸品、雑貨がそろいます。沖縄を感じる穏やかな空間が魅力です。

沖縄の奥深い魅力を伝えたいというコンセプトで沖縄の本(新刊・古書)を中心に、工芸品や雑貨も扱う書店。

2 LIFE IS JOURNEY!

【営業時間】12:00〜19:00
【定休日】水曜日・木曜日
【TEL】078-585-6434
【住所】神戸市東灘区岡本1-12-26
マンション藤106

世界を旅してきたご夫婦が営む雑貨店。訪れた国の歴史や文化の中で育まれた「暮らしのいいとこ取り」がコンセプト。キッチン雑貨やリビング雑貨、服飾雑貨、マテ茶など、思わず家に置きたくなるような、すてきな暮らし方のヒントになる商品がいっぱいです。

世界を旅する夫婦が、家に置きたい物や、すてきな暮らし方のヒントを世界中から集めたお店。

3 NAIFS(ナイーフ)

【営業時間】10:00〜20:00
【定休日】木曜日・年末年始・お盆
【TEL】078-411-1450
【住所】神戸市東灘区本山北町3-6-2

オーナーが買い付けたリーズナブルでかわいいヨーロッパやアジアの食器や日用品、衣類を扱う老舗の雑貨店です。お店の外に並んだ素朴なかごの数々は、なつかしいと思われる卒業生もいらっしゃるのでは?異国の雑貨が整然と並ぶ店内は、宝探し気分が楽しめます。

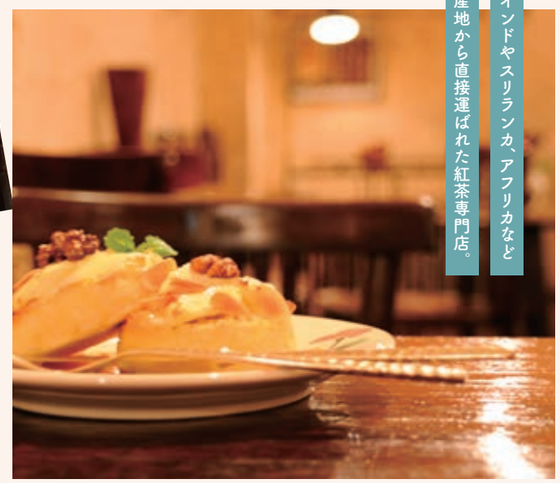
ヨーロッパやアジアの食器や日用品、衣類などを扱う老舗の雑貨店。

NAIFSのオリジナル商品も人気。

4 tea room mahisa 岡本店

【営業時間】
月 〜 金 /12:00〜20:00(L.O18:30)
土・日・祝/11:30〜19:00(L.O18:30)
ランチ営業(土日祝のみ)11:30〜L.O14:00
【定休日】水曜日・年末年始
【TEL】078-451-8411
【住所】神戸市東灘区本山北町3-6-9

インドやスリランカなど産地の農園から直接届いた紅茶を提供。飽きずに普段使いできる紅茶にこだわっています。紅茶の濃さに合わせたおすすめスイーツで幸せな一時を。



インドやスリランカ、アフリカなど産地から直接運ばれた紅茶専門店。

平生釟三郎日記 | 刊行記念シリーズ 完

平生釟三郎の寿像の話

甲南大学名誉教授
藤本 建夫（ふじもと たてお）

胸像「平生釟三郎」

大正12（1923）年9月1日に関東地方を襲った大震火災は後始末をめぐって社会・政治問題化したが、翌年2月にやっと決着がつき、東京海上火災保険会社専務であった平生釟三郎は同年9月から翌年4月にかけて、アメリカ、ブラジル、ヨーロッパ諸国を漫遊する。アメリカでの視察を終えてブラジルに向かう船中で読んだエドワード・ボックの自伝に、自分と同じ人生三分論（教育の時代、社会的基礎設立時代、社会奉仕時代）が論じられていて衝撃を受け、すぐにでも専務の職を辞し社会奉仕に専念することを心に誓う。

帰国後、彼は5月の株主総会に専務の辞表を提出する。この突然の辞任には誰もが驚いたが、関西財界人等は、これまでの平生のさまざまな貢献に対して感謝の気持ちを表わすために彼に胸像を贈ることとし、大阪出身の著名な彫刻家大国貞蔵に制作を委嘱する。

8月から翌年4月まで何度も平生は妻スズと彼のアトリエを訪ね、モデルとして彼と対座し、自分の60年の歴史、性格、趣味等を話す中で、彼の全人格が大国を通して胸像に取り込まれ、それは誰が見ても快心の出来栄えであった。

主に関西財界人から平生釟三郎に贈られた大国貞蔵作の胸像（甲南高等学校・中学校所蔵）。

大正15（1926）年4月27日、贈呈式当日。胸像の台座は木製で、そこには財界を中心に79名の錚々たる著名人が名を連ねていた。その日の晩餐会で平生は感謝の意とともに、今後の彼の決意をこう述べた。日本の現状は、「根本的に国民性を改善するにあらざれば・・・この行詰りたる現状を打破」することはできない。これからは「私は微力ながら渾身の努力を以て現代学校教育を根本的に革新し、この誤れる教育方針をして正しき道に復帰」させようと思うと。

また制作者の大国は、平生に「直感的に気分のどこかに『福沢諭吉』」を感じ、平和な穏かな風貌はまるで教育者であり、以前実業家として労苦を積んだ人とは見受けがたいと述べた。

この胸像は現在甲南高等学校・中学校の校長室に安置されている。

甲南高等学校の「平生釟三郎先生寿像」

実業界から引退したはずの平生が再び、倒産寸前の川崎造船所の社長として復帰して同社を立て直し、そのかたわら、人口過剰な日本にとって重要なブラジルがとった厳しい移民制限策に対し、昭和10（1935）年4月、彼を団長とする日伯経済使節団が派遣され、大成功を収める。

翌年、二・二六事件が発生し、その後の内閣改造で彼は文部大臣に推挙される。この大臣時代に制作されたのが本山白雲作の「平生釟三郎先生寿像」である。もとはと言えば、この寿像は川崎造船所の従業員一同が平生の貴族院議員勅撰を祝して資金を出し合って、職工のためのユニークな川崎東山学校を背に建設されたものである。甲南学園では、くしくも、平生が大臣になったのを記念して安宅彌吉を委員長に寿像建立計画が立てられたが、その寿像の型を川崎造船所の好意で譲り受け、その台石には伊藤忠兵衛が新居のため整地工事をしていたときに発掘された巨石が使用されることになった。

台座の背面の銘文だが、これは国漢科の先生たちが起草し、尋常科一年の学生が健筆を振るった。「本校創立者平生釟三郎先生ハ・・・当時ノ学校教育ガ知育ニ偏シ徳育ヲ軽ンジ体育ニ力ヲ致サザルヲ見テ革新ノ必要ヲ痛感セラレ・・・本校ノ教育方針ハ人格ノ修養ト健康ノ増進ヲ第一義トシ個性ニ応ジテ天賦ノ智能ヲ啓発スルニアリ・・・吾等先生ノ恵沢ニ浴スルモノ相集リ茲ニ寿像ヲ建立シテ敬慕ト感謝ノ意ヲ表ス 昭和十二年一月十日」。

敷地の関係で実際に竣工をみたのは昭和12年5月17日で、5月23日の除幕式には平生家の人々、甲南幼稚園、小学校、高等学校生徒ならびに来賓700余名が参列し、兵庫県知事代理、神戸商科大学長、本山村長の祝辞があり、それに平生の謝辞があり、実に盛大であった。

この建立にあたって問題となったのは寿像の設置場所であった。これについて伊藤忠兵衛は次のように証言している。甲南高等学校に下付された御真影は校長室に安置されていたが、寿像設置の条件に、御真影より上に銅像、胸像の類を建ててはいけない、さらにそれと御真影の建物の間は何メートルか距離を置かなければならないと細則に決められていたのを知って伊藤忠兵衛は驚き、そこでいろいろ考えたあげく、「平生先生の像を今のあの低いところに持っていった」。

なお台座の題字について通常は縦書きであるのに対し、甲南高等学校のは左横書きである。これは伊藤忠兵衛がカナモジ会員であったことと関係しているかもしれない。大国作の胸像でも伊藤はカタカナ横書きで署名している。

昭和12年5月23日、「平生釟三郎先生寿像」除幕式で謝辞を述べる平生釟三郎（甲南学園所蔵）。

川崎東山学校を背に立つ「平生社長寿像」のその後

日伯経済使節団団長として成果を上げて帰国した平生は、昭和10年12月3日に貴族院議員に勅撰され、5日には天皇御前講演を行う光栄に浴した。この勅撰を機に、川崎造船所の従業員一同は平生社長の人格を敬仰し、かつ感謝の念を込め、坂本龍馬像を手がけた彫刻家本山白雲に「平生社長寿像」制作を委嘱し、昭和11年8月1日に盛大な除幕式が行われた。スズ日記によると、スズ以下8人の家族も式に参列し、平生家にとっても栄誉このうえない一日であった。

台座に刻まれた碑文だが、甲南高等学校のものとは当然ながら全く違う。「・・・昭和八年三月社業艱難ノ秋輿望ヲ担ヒテ社長ノ重任ニ就キ資性事ニ当リ温情衆ヲ率キ能ク難局ヲ打開シテ遂ニ今日ノ隆盛ヲ致シ我等ヲシテ恵沢ニ浴セシム其多年ノ功績畏クモ 天聴ニ達シ貴族院議員ノ恩命ヲ拝ス・・・ 茲ニ之ヲ東山丘上ニ建テ永ク其高徳ヲ記念シ謝恩ノ微衷ヲ表スト云フ 昭和十年十二月」。

ところで戦時下の「金属類回収令」により全国から多くの銅像・彫像類も供出されることになった。甲南高等学校の寿像はその対象にはならなかったようだが、東山学校の平生像はどんな運命をたどったのだろうか。

現在当該地には川崎重工業の高層の寮がそびえ、かつての学校はもちろん、あの寿像も台座も見当たらない。その寮の一段下ったところにかつて川崎造船所（のちの川崎重工業）に属していた川崎病院があるが、ここに問題を解くカギがあった。

川重OB会機関誌『相信』に大西胖は「五十三年目の寿像」と題して次のように記している。川崎病院は昭和61（1986）年に創立50周年を迎え新棟が建設されたが、その際工事中屋内に移していた平生の胸像をどこに設置し、化粧直しをどうするかが議論された。問題は特に台座にあった。元の台座はコンクリートブロックを積んでモルタルで上塗りしただけのものであったから、これをどうするか。こうした議論が行われたこと自体、問題の寿像はあの「東山丘上」に立っていたものではなく、最初から病院の玄関前に建立されていたものだろう。そんな折、東山寮の敷地の一隅にあの問題の台座が雑草に半ば埋もれているのが発見され、これがコンクリートブロックに代わる新たな台座として使用されることになった。そして大西は「新装成った川崎病院の玄関前に、平生社長の寿像が端然と据え付けられる日を、今から心待ちにしている」とこのエッセーを締めくくっている。

なお「平生社長寿像」は現在病院の裏手の駐車場側に移築されている。

寿像と切り離された台座はこうして生き返ったが、寿像そのものは「金属類回収令」により「供出」されて消えてしまったのか。実はそれは現在不釣り合いの木製の台座に乗せられて旧東山寮の屋内にある。いつ、いかなる経緯でそうなったのかは今では判然としないが、その寿像はまるでかつての役目を終えたかのように、使われなくなった寮の二階にひっそりと佇んでいる。

川崎病院創立50周年を記念して、かつての東山学校の「平生社長寿像」の台座を利用して玄関前に建てられた平生像（川崎重工業所蔵）。

川崎重工業旧東山寮内に置かれている木製板の台座に乗せられた平生釟三郎像（川崎重工業所蔵）。

『平生釟三郎日記』
最終巻第十八巻を刊行しました。

『平生釟三郎日記』は、昨年に最終巻である第十八巻を刊行いたしました。定価は各巻20,000円（税抜）ですが、甲南学園関係者の方（卒業生、在学生、ご父母、教職員等）は10,000円（税抜）でご購入いただけます。

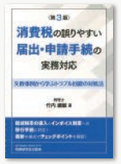
ご注文・ご購入に関するお問い合わせ
［ TSUTAYA BOOKSTORE 甲南大学 学友会館 ］
Tel.078-441-7901　Fax.078-441-7915

新刊一覧

甲南学園の教員・教諭と卒業生が執筆した

あなたと原爆 オーウェル評論集
秋元 孝文［文学部教授］訳
光文社
880円（税別）

中学・高校生のための 柔道のやさしいトレーニング科学
曽我部 晋哉［スポーツ・健康科学教育研究センター教授］著
ベースボール・マガジン社
1,800円（税別）



消費税の誤りやすい届出・申請手続の実務対応 第3版
竹内 綱敏［経済学部特任教授］著
税務研究会出版局
2,100円（税別）

英米文学文化の異民族・異邦人・異人種（増補版）
青山 義孝［名誉教授］他編
デザインエッグ社

トラウマと倫理
精神分析と哲学の対話から
富樫 公一［文学部教授］編著・監訳
岩崎学術出版社
3,800円（税別）

鎖国時代 海を渡った日本図
鳴海 邦匡［文学部教授］他編
大阪大学出版会
1,900円（税別）

出題基準対応 公認心理師のための基礎心理学
子安 増生［文学部特任教授］著
金芳堂
2,200円（税別）

SDGs時代のグローバル開発協力論
— 開発援助・パートナーシップの再考 —
真崎 克彦［マネジメント創造学部教授］他編著
明石書店
2,300円（税別）

改訂版 国際社会を学ぶ
真崎 克彦［マネジメント創造学部教授］他著
晃洋書房
2,800円（税別）

D.H.ロレンス書簡Ⅸ 1919-1920/6
岩井 学［文学部教授］他訳
松柏社
5,300円（税別）

基礎コース 財政学 第4版
林 亮輔［経済学部准教授］他著
新世社
2,450円（税別）

大阪大学法史学研究叢書Ⅰ
「前段の司法」とその担い手をめぐる比較法史研究
阪上 眞千子［法学部教授］他著
大阪大学出版会
5,400円（税別）

ベーシック監査論 八訂版
伊豫田 隆俊［共通教育センター教授］他著
同文舘出版
3,800円（税別）

お江戸やすらぎ飯
鷹井 伶［S58文卒］著
角川文庫
680円（税別）

編集後記

2019年は100周年イヤーということで、本誌でも式典・祝賀会の模様や関連記事などを掲載しておりましたが、マネジメント創造学部とフロンティアサイエンス学部が開設されてから10周年の節目でもあります。今回、両学部の10年間の歩みを紹介するとともに、1期生の卒業生の方にもご登場いただき特集を組んでおりますので、ぜひご覧ください。

裏表紙に掲載の卒業証書は、学園に寄贈いただいたものですが、大学が開学し初めて卒業生に授与した大変貴重なものです。卒業後はあまり見ることがない卒業証書や学位記ですが、この機会に改めて眺めてみてはいかがでしょうか。

今号をもって「平生釟三郎日記刊行記念シリーズ」と裏表紙「甲南学園の100年」の掲載を終了いたします。ご愛読いただきありがとうございました。

甲南高等学校・中学校 大同窓会

『正志く 強く 朗らかに』甲南魂 次の100年へ

今年は芦屋の母校で開催いたします。詳細が決まり次第、封書/甲南高等学校同窓会ホームページ（http://www.konan-alumni.jp/）等でご案内いたします。甲南高等学校・中学校のOBの方はぜひご参加ください！

2020年
5月30日（土）

場所
甲南高等学校・中学校

第1部　同窓会総会　14:30～（受付14:00頃～）
第2部　大同窓会　15:30～

宮崎隆睦さん（S63卒、日本を代表するサックス奏者）等の特別LIVEなど♪

KONAN TODAY 57
2020 Spring NO.
発行日／2020年3月26日
発　行／甲南学園広報部 〒658-8501
神戸市東灘区岡本8丁目9番1号　TEL.（078）431-4341（代）

PRESENT

「甲南学園歌・甲南高等学校校歌」CD

抽選で30名様に！

23ページで紹介したCDを抽選でプレゼント
ご希望の方は、同封のアンケートハガキでご応募ください。

応募締切：2020年5月31日到着分まで

Konan Athlete

課外活動成果報告

（敬称略）

みなさんの活躍に心より拍手を送ります。
掲載期間　2019年7月～12月

大学

【アイスホッケー部】
関西学生リーグ戦（9～11月）
二部リーグ優勝⇒一部Bリーグ昇格

【アーチェリー部】
関西学生アーチェリーターゲット選手権大会（8月）
男子の部 4位：中嶋智也（済3）
女子の部 5位：加守田彩香（営4）
全兵庫大会アーチェリー競技会兼野草杯アーチェリー大会（9月）
学生男子の部 1位：増田雄世（知1）
学生女子の部 1位：的場瞳（知2）
全日本学生アーチェリー個人選手権大会出場（9月）
男子の部：中嶋智也（済3）・長谷川颯磨（営2）・増田雄世（知1）
女子の部：加守田彩香（営4）
全関西アーチェリー個人選手権大会（9月）
リカーブ女子の部 3位：加守田彩香（営4）

【空手道部】
川西市空手道大会（11月）
男子形優勝：河野秀人（理1）
女子組手優勝：岡脇聡美（法4）
全日本大学空手道選手権大会（11月）
男子団体組手出場
女子団体組手出場

【弓道部】
全日本学生弓道選手権大会（8月）
男子団体 3位
リーグ戦（10月）
女子：二部 4位
男子：二部Aリーグ 2位

【クルージングヨット部】
ブレアニオールズカップ（12月）
総合 5位

【剣道部】
全日本女子学生剣道東西対抗試合（7月）
優秀選手賞：西村葵（済4）

【硬式庭球部】
全日本学生テニストーナメント（8月）
男子シングルスベスト64：東川将大（営3）・岡崎大倭（文3）
女子シングルスベスト16：中谷琴乃（営4）
関西大学対抗テニスリーグ戦（9月）
男子：二部 3位
女子：二部 6位

【硬式野球部】
阪神六大学野球連盟秋季リーグ戦（10月）
一部 5位
ベストナイン（外野手）受賞：山本侑度（法3）

【サッカー部】
関西学生サッカーリーグ（9月）
二部Aリーグ 1位⇒一部昇格
関西学生サッカー新人大会（9月）
1位⇒全日本大学サッカー新人戦出場（7月）

【柔道部】
近畿ジュニア柔道体重別選手権大会
100kg級 3位：長谷川樹希（済2）
73kg級 3位：横山大地（済1）
関西学生柔道体重別選手権大会（8月）
81kg級ベスト4：奥村弥百希（済1）
100kg級ベスト4：長谷川樹希（済2）
全日本学生柔道体重別団体優勝大会（10月）出場
兵庫県学生柔道体重別選手権大会（12月）
60kg級優勝：前田辰弥（知1）
90kg級優勝：戸田将太（法2）
90kg超級優勝：長谷川樹希（済2）
全日本学生大会（11月）
立合評価法
男子軽量級の部 1位：濱口昌寿（知4）
男子軽量級の部 2位：厨子港（理3）
立合評価法団体 3位
関西学生新人大会（12月）
運用法男子中量級の部優勝：山本響（知2）
運用法男子軽量級の部 3位：成田和樹（知3）

【水泳部】
日本学生選手権水泳競技大会（9月）
100m自由形出場：阿部希（済4）
200m自由形出場：阿部希（済4）・橘大夢（済3）
全日本学生選手権大会兵庫県予選会（11月）
男子シングルス 7位：川崎裕介（済1）
⇒全日本卓球選手権大会近畿予選会の出場権獲得

【学硬式野球部】
文部科学大臣杯全日本大学準硬式野球選手権大会（8月）
ベスト16
近畿六大大学秋季リーグ戦（9月）
男子4×100mR 1位：山村景大（済2）・葛川智博（理2）・東原侑生（済4）・細見慶念人（文1）
丹後大学駅伝（11月）
16位

【女子ハンドボール部】
関西学生女子秋季リーグ戦（11月）
二部 6位

【ラクロス部】
関西ラクロス学生リーグ戦（8月）
二部 4位

【女子ラクロス部】
関西学生ラクロスリーグ戦（女子）（10月）
三部Bブロック 1位⇒二部昇格

【フットサル部】
関西学生ナレッシュマンカップ（9月）
準優勝
全日本フットサル選手権大会兵庫県予選（12月）

【女子陸上競技部】
東海陸上競技選手権大会兼日本陸上競技選手権大会予選会（8月）
女子走高跳 1位：小笠原早矢佩（文1）
天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会（9月）
女子走高跳 9位：小笠原早矢佩（文1）
日本陸上競技選手権リレー競技大会（10月）
4×100mR 4位：西尾香穂（営4）・三宅真理奈（営4）・高山綺音（営2）・鈴木塔子（営3）
U20日本陸上競技選手権大会（10月）
女子走高跳 4位：小笠原早矢佩（文1）
女子100mH 6位：岡崎汀（営1）
関西学生陸上競技種目別選手権大会（10月）
女子4×100mR 1位：高山綺音（営2）・濠谷柚花（営2）・尾上梨香（営2）・宮田乙葉（営2）
女子100m 1位：鈴木塔子（営3）
マカオ招待陸上（11月）
女子4×100mR 2位：関西学連選抜（4走：西尾香穂）
女子100m 2位：西尾香穂（営4）

高校

【ゴルフ部】
兵庫県高等学校ゴルフ選手権秋季大会兼関西決勝大会予選（11月）
2位：上野隼人（高二）
全国高等学校ゴルフ選手権春季大会出場：上野隼人（高二）

【テニス部】
関西ジュニア（7月）
18歳以下の部ダブルスベスト8：奥平駿（高三）・森田篤郎（高二）組
シングルスベスト32：奥平駿（高三）
全日本ジュニア（8月）
18歳以下の部ダブルス出場：奥平駿（高三）・森田篤郎（高二）組
近畿新人大会（9月）
ダブルスベスト8：阿部哉太（高二）・日野健太（高二）組
近畿新人大会（11月）
団体 5位⇒全国高校選抜大会出場

【将棋部】
近畿高等学校総合文化祭将棋部門（11月）
団体準優勝：小野誠（高一）・畑山敏輝（高一）・村井響（高一）
兵庫県高等学校総合文化祭将棋部門（11月）
団体戦全勝優勝：畑山敏輝（高一）・小野誠（高一）・萬谷龍信（高一）⇒春秋連覇

【弓道部】
近畿大会（7月）
個人優勝：高本真生（高三）⇒甲南初
団体 3位：吉川恭平（高二）・有浦秀（高二）・東嘉紀（高二）・別所和純（高二）・芥川武史（高二）・徳永傑大（高二）⇒46年ぶりの快挙
県選抜大会（11月）
団体優勝：吉川恭平（高二）・有浦秀（高二）・芥川武史（高二）・東嘉紀（高二）⇒36年ぶりに団体での全国大会出場
全国高等学校月道選抜大会（12月）
男子団体の部ベスト16
個人6位：芥川武史（高二）

中学

【ゴルフ部】
兵庫県中学校ゴルフ選手権秋季大会兼関西決勝大会予選（11月）
7位：阿部英彦（中2）
兵庫県中学校ゴルフ選手権秋季大会中学3年の部（11月）
4位：上岡脩季（中3）・7位：高山寿輝（中3）
関西高等学校・中学校ゴルフ選手権決勝大会（11月）
7位：阿部英彦（中2）
全国中学校ゴルフ選手権春季大会出場：阿部英彦（中2）

【テニス部】
関西ジュニア（7月）
16歳以下の部ダブルスベスト8：中元奏太（中3）・野村光平（中3）組
近畿総体（8月）
団体 3位
ダブルス準優勝：中元奏太（中3）・野村光平（中3）組
全国中学生テニス選手権大会（8月）
団体ベスト16
近畿私学大会（10月）
団体準優勝⇒全国私学大会出場

【馬術部】
関西学生賓興障害馬術大会（7月）
団体 3位：上田育実（フロ4）・長沼隆史（済2）・菊竹様子（営1）
個人 3位：長沼隆史（済2）
全日本学生賓興障害飛越競技大会（11月）
障害飛越競技2位：長沼隆史（済2）

【バスケットボール部】
関西学生バスケットボールリーグ（9月）
二部 5位

【バドミントン部】
関西学生秋季リーグ（9月）
男子団体 一部 4位
女子団体 一部 8位
秩父宮・秩父宮妃杯争奪全日本学生バドミントン選手権大会（10月）
男子ダブルス出場：丹波哲男（文2）・益田颯汰（法1）
男子シングルス出場：丹波哲男（文2）・益田颯汰（法1）
女子シングルス出場：眞嶋彩帆（法3）
女子ダブルス出場：奴賀由佳子（営4）・眞嶋彩帆（法3）
男子団体出場

【バレーボール部】
関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦（9月）
一部 8位

【フェンシング部】
関西学生フェンシング大会（10月）
18位：徳毛花緒（法3）：インカレ出場

【ヨット部】
関西学生ヨット夏季選手権大会（8月）
470級2位・スナイプ級2位
総合成績2位
全日本学生女子ヨット選手権大会（9月）
470級 5位
総合成績 6位
関西学生ヨット選手権大会（9月）
470級 3位・スナイプ級 5位
総合成績 3位
全日本学生ヨット個人選手権大会（9月）
スナイプ級 6位：桑原洋樹（営4）・吉田奈央（法4）組
全日本学生ヨット選手権大会（11月）
470級 17位
関西学生ヨット新人選手権大会（12月）
470級 1位：岸田流星（営2）・岩階渚（営3）組

【ライフル射撃部】
全日本学生スポーツ射撃選手権大会（10月）
男子団体 10位
女子団体 10位
全関西学生ライフル射撃新人戦（11月）
10mS 60M団体優勝
総合 3位

【ラグビーフットボール部】
関西大学ラグビーリーグ（8月）
Cリーグ 1位⇒Bリーグ昇格決定

【陸上競技部】
滋賀県陸上競技選手権大会（7月）
男子棒高跳：総合 1位：春田郁哉（マネ3）
兵庫陸上競技選手権大会（7月）
男子4×100mR 1位：山村景大（済2）・葛川智博（理2）・東原侑生（済4）・細見慶念人（文1）
丹後大学駅伝（11月）
16位

【女子陸上競技部】
関西学生賓興障害飛越競技大会（11月）
障害飛越競技2位：長沼隆史（済2）

【バスケットボール部】
関西学生バスケットボールリーグ（9月）
二部 5位

【バドミントン部】
関西学生賓興障害馬術大会（7月）
団体 3位：上田育実（フロ4）・長沼隆史（済2）・菊竹様子（営1）
個人 3位：長沼隆史（済2）
全日本学生賓興障害飛越競技大会（11月）
障害飛越競技2位：長沼隆史（済2）

【バスケットボール部】
関西学生バスケットボールリーグ（9月）
二部 5位

【バドミントン部】
関西学生秋季リーグ（9月）
男子団体 一部 4位
女子団体 一部 8位
秩父宮・秩父宮妃杯争奪全日本学生バドミントン選手権大会（10月）
男子ダブルス出場：丹波哲男（文2）・益田颯汰（法1）
男子シングルス出場：丹波哲男（文2）・益田颯汰（法1）
女子シングルス出場：眞嶋彩帆（法3）
女子ダブルス出場：奴賀由佳子（営4）・眞嶋彩帆（法3）
男子団体出場

【バレーボール部】
関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦（9月）
一部 8位

【フェンシング部】
関西学生フェンシング大会（10月）
18位：徳毛花緒（法3）：インカレ出場

【ヨット部】
関西学生ヨット夏季選手権大会（8月）
470級2位・スナイプ級2位
総合成績2位
全日本学生女子ヨット選手権大会（9月）
470級 5位
総合成績 6位
関西学生ヨット選手権大会（9月）
470級 3位・スナイプ級 5位
総合成績 3位
全日本学生ヨット個人選手権大会（9月）
スナイプ級 6位：桑原洋樹（営4）・吉田奈央（法4）組
全日本学生ヨット選手権大会（11月）
470級 17位
関西学生ヨット新人選手権大会（12月）
470級 1位：岸田流星（営2）・岩階渚（営3）組

【ライフル射撃部】
全日本学生スポーツ射撃選手権大会（10月）
男子団体 10位
女子団体 10位
全関西学生ライフル射撃新人戦（11月）
10mS 60M団体優勝
総合 3位

【ラグビーフットボール部】
関西大学ラグビーリーグ（8月）
Cリーグ 1位⇒Bリーグ昇格決定

【陸上競技部】
滋賀県陸上競技選手権大会（7月）
男子棒高跳：総合 1位：春田郁哉（マネ3）
兵庫陸上競技選手権大会（7月）
男子4×100mR 1位：山村景大（済2）・葛川智博（理2）・東原侑生（済4）・細見慶念人（文1）
丹後大学駅伝（11月）
16位

【女子ハンドボール部】
関西学生女子秋季リーグ戦（11月）
二部 6位

【ラクロス部】
関西ラクロス学生リーグ戦（8月）
二部 4位

【女子ラクロス部】
関西学生ラクロスリーグ戦（女子）（10月）
三部Bブロック 1位⇒二部昇格

【フットサル部】
関西学生ナレッシュマンカップ（9月）
準優勝
全日本フットサル選手権大会兵庫県予選（12月）

【女子陸上競技部】
東海陸上競技選手権大会兼日本陸上競技選手権大会予選会（8月）
女子走高跳 1位：小笠原早矢佩（文1）
天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会（9月）
女子走高跳 9位：小笠原早矢佩（文1）
日本陸上競技選手権リレー競技大会（10月）
4×100mR 4位：西尾香穂（営4）・三宅真理奈（営4）・高山綺音（営2）・鈴木塔子（営3）
U20日本陸上競技選手権大会（10月）
女子走高跳 4位：小笠原早矢佩（文1）
女子100mH 6位：岡崎汀（営1）
関西学生陸上競技種目別選手権大会（10月）
女子4×100mR 1位：高山綺音（営2）・濠谷柚花（営2）・尾上梨香（営2）・宮田乙葉（営2）
女子100m 1位：鈴木塔子（営3）
マカオ招待陸上（11月）
女子4×100mR 2位：関西学連選抜（4走：西尾香穂）
女子100m 2位：西尾香穂（営4）

高校

【ゴルフ部】
兵庫県高等学校ゴルフ選手権秋季大会兼関西決勝大会予選（11月）
2位：上野隼人（高二）
全国高等学校ゴルフ選手権春季大会出場：上野隼人（高二）

【テニス部】
関西ジュニア（7月）
18歳以下の部ダブルスベスト8：奥平駿（高三）・森田篤郎（高二）組
シングルスベスト32：奥平駿（高三）
全日本ジュニア（8月）
18歳以下の部ダブルス出場：奥平駿（高三）・森田篤郎（高二）組
近畿新人大会（9月）
ダブルスベスト8：阿部哉太（高二）・日野健太（高二）組
近畿新人大会（11月）
団体 5位⇒全国高校選抜大会出場

【将棋部】
近畿高等学校総合文化祭将棋部門（11月）
団体準優勝：小野誠（高一）・畑山敏輝（高一）・村井響（高一）
兵庫県高等学校総合文化祭将棋部門（11月）
団体戦全勝優勝：畑山敏輝（高一）・小野誠（高一）・萬谷龍信（高一）⇒春秋連覇

【弓道部】
近畿大会（7月）
個人優勝：高本真生（高三）⇒甲南初
団体 3位：吉川恭平（高二）・有浦秀（高二）・東嘉紀（高二）・別所和純（高二）・芥川武史（高二）・徳永傑大（高二）⇒46年ぶりの快挙
県選抜大会（11月）
団体優勝：吉川恭平（高二）・有浦秀（高二）・芥川武史（高二）・東嘉紀（高二）⇒36年ぶりに団体での全国大会出場
全国高等学校月道選抜大会（12月）
男子団体の部ベスト16
個人6位：芥川武史（高二）

中学